

2026 年 6 月 25 日 岩手県沖の地震の評価

- 6 月 25 日 07 時 30 分に岩手県沖の深さ約 45 km でマグニチュード(M)7.2 (暫定値)の地震が発生した。この地震により青森県で最大震度 6 強を観測し、負傷者が出るなどの被害を生じた。また、この地震により北海道から東北地方にかけて長周期地震動階級 2 を観測した。
この地震により、岩手県久慈港観測点 (港湾局) で若干の海面変動を観測した。
- 発震機構は西北西—東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、発震機構及び震源の深さから太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震と考えられる。
- G N S S 観測によると、今回の地震に伴って、青森県八戸観測点が東南東方向に約 2 cm 移動するなど、岩手県北部から青森県にかけて地殻変動が観測された。
- 今回の地震活動は、6 月 25 日 13 時までに最大震度 1 以上を観測した地震が 9 回発生するなど、継続している。G N S S 観測、地震波を用いた解析から推定される M7.2 の震源断層は破壊開始点付近に広がっている。
- 今回の地震活動域の南東側では、2025 年 11 月 9 日の三陸沖 (M6.9)、2026 年 4 月 20 日の三陸沖 (M7.7) の地震活動が見られる。これらの一連の地震活動域の東側では、2025 年 11 月 4 日の三陸沖の地震 (M5.3) が発生して以降、微動活動が断続的に継続している。
G N S S 観測によると、4 月 20 日の三陸沖の地震 (M7.7) の後、およそ 2 か月間で、岩手県の田老 A 観測点が東方向に約 5 cm 変動するなど、岩手県を中心に余効変動と考えられる水平変動が観測されている。余効変動から推定される余効すべりは、4 月 20 日の三陸沖 (M7.7) の地震活動域と今回の地震活動域のそれぞれ西側、東側で継続していたと考えられる。また、その周辺では、繰り返し地震の解析から、非地震性すべりが継続していたと考えられる。
- 今回の地震活動は、「平成 6 年 (1994 年) 三陸はるか沖地震」(M7.6) の震源域の西端付近における最大余震 (1995 年 1 月 7 日の M7.2) の震央付近で発生している。なお、今回の地震活動域を含む 2025 年 11 月からの三陸沖から岩手県沖にかけての一連の地震活動域、「平成 6 年 (1994 年) 三陸はるか沖地震」の震源域及び 2025 年 12 月 8 日の青森県東方沖 (M7.5) の地震活動域は、「1968 年十勝沖地震」(M7.9) の震源域内のそれぞれ南部、中部、北部に位置する。
- 今回の地震は、地震調査委員会が「日本海溝沿いの地震活動の長期評価 (平成 31 年 2 月 26 日公表)」で想定していた「青森県東方沖及び岩手県沖北部」の領域

で発生する「ひとまわり小さいプレート間地震」(M7.0～M7.5 程度)であり、30年以内に発生する確率はいずれの領域でもⅢランク(高い)(*)に該当する。これは、海溝型地震の中では、地震発生確率が最も高いものと位置づけられる。なお、「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」は「青森県東方沖及び岩手県沖北部」の「ひとまわり小さいプレート間地震」とされ、また、「1968年十勝沖地震」は同領域の「プレート間巨大地震」(M7.9 程度)とされているが、どちらも、30年以内に発生する確率はⅢランク(高い)に該当する。

- 過去の一般的な事例では、大地震発生後に同程度の地震が発生した割合は1～2割あることから、揺れの強かった地域では、地震発生から1週間程度、最大震度6強程度の地震に注意が必要である。特に地震発生から2～3日程度は、強い揺れをもたらす地震が発生することが多くある。

* : 海溝型地震における今後30年以内の地震発生確率が26%以上を「Ⅲランク」、3%～26%未満を「Ⅱランク」、3%未満を「Ⅰランク」、不明(すぐに地震が起きることを否定できない)を「Xランク」と表記している。

注 : G N S Sとは、G P Sをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。

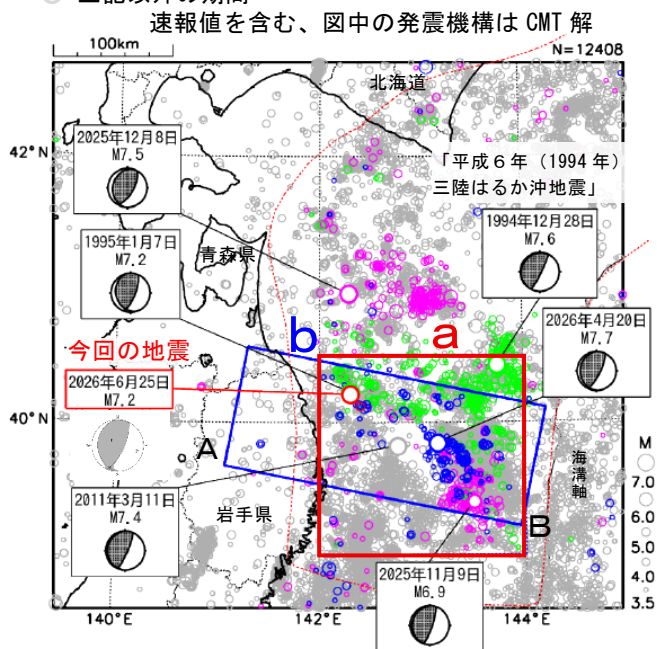
6月25日 岩手県沖の地震

(2025年11月からの三陸沖から岩手県沖にかけての地震活動)

震央分布図

(1994年10月1日～2026年6月25日09時00分、
深さ0～100km、 $M \geq 3.5$)

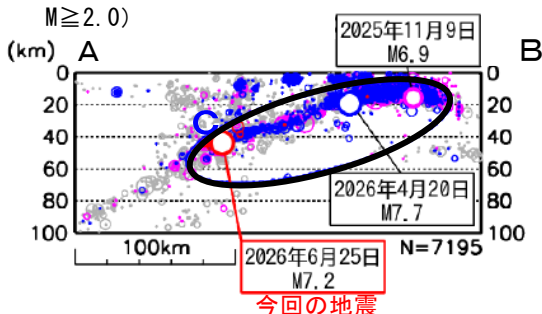
- 1994年12月28日21時19分～1995年1月31日
- 2025年11月1日～2026年4月20日16時51分
- 2026年4月20日16時52分～2026年6月24日
- 2026年6月25日
- 上記以外の期間



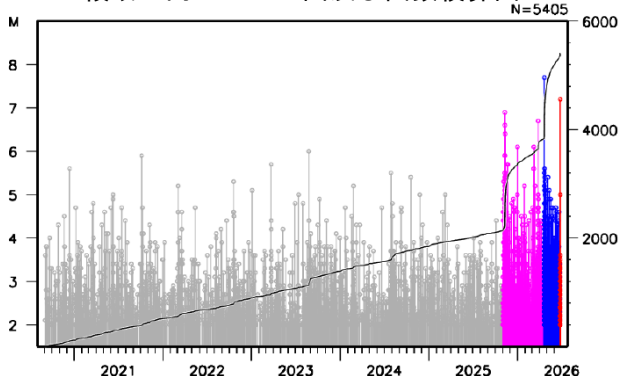
図内の赤点線で囲まれた領域は千島海溝・日本海溝沿いの巨大地震の想定震源域

領域b内の断面図 (A-B投影)

(2020年9月1日00時～2026年6月25日09時00分、
 $M \geq 2.0$)



領域c内のM-T図及び回数積算図



2026年6月25日07時30分に岩手県沖の深さ44kmでM7.2の地震が発生し、青森県階上町で震度6強を観測したほか、北海道から中部地方にかけて震度6弱～1を観測した。また、北海道から関東地方にかけて長周期地震動階級2～1を観測した。

気象庁はこの地震に対して、最初の地震波の検知から4.7秒後の07時30分26.5秒に緊急地震速報 (警報) を発表した。

この地震は、発震機構 (CMT解) が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

今回の地震の震央付近 (領域a) では、2025年11月4日からまとまった地震活動が見られるようになり、2025年11月9日にM6.9の地震 (最大震度4) が発生した。2026年4月20日には、M7.7の地震 (最大震度5強) が発生し、地震活動がさらに活発になっていた。領域aでは、2026年4月20日以降、震度1以上を観測する地震が64回 (震度6強: 1回、震度5強: 1回、震度3: 4回、震度2: 12回、震度1: 46回) (注1) 発生した (2026年6月25日09時現在)。

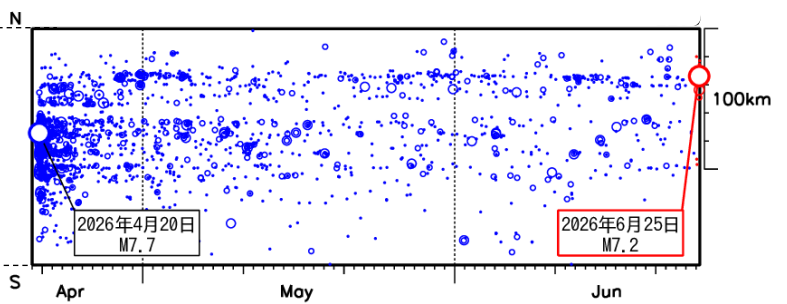
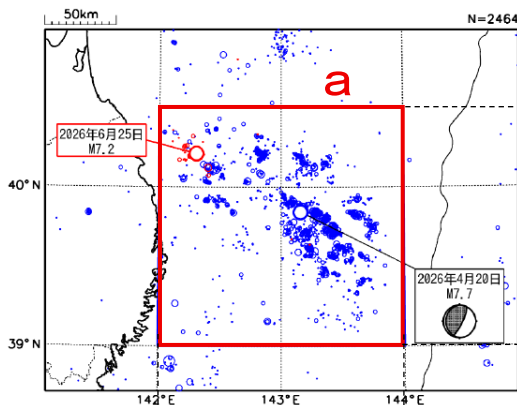
今回の地震により、負傷者2人などの被害が生じた (2026年6月25日14時00分現在、総務省消防庁による)。

2020年9月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域c) では、M5.0以上の地震が時々発生している。

2026年4月20日以降の地震活動域より北側では、1994年12月28日に「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」(M7.6、最大震度6) が発生し、死者3人、負傷者788人、住家全壊72棟などの被害が生じた (被害は、日本被害地震総覧による)。

なお、気象庁は、この地震について震源位置や規模を精査したが、国の基本計画等に定められている、後発地震への注意を促す情報を発表する基準を満たさなかったことから、北海道・三陸沖後発地震注意情報の発表は行わなかった。

(注1) 震度1以上を観測した地震の回数は、後日の調査で変更する場合がある

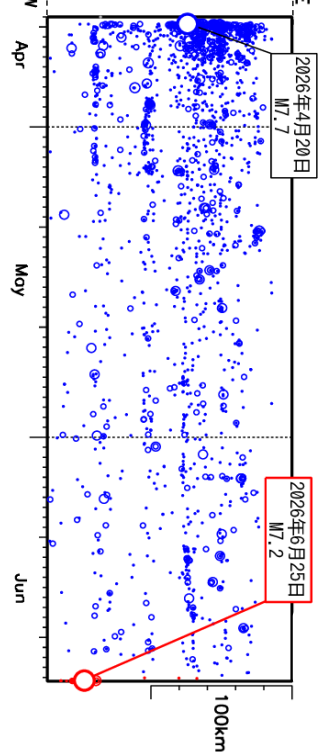


領域 a 内の地震の時空間分布図
(2026年4月20日～2026年6月25日09時00分、
深さ0～100km、 $M \geq 2.0$)

- 2026年4月20日 16時52分～2026年6月24日
 - 2026年6月25日
- 速報値を含む、図中の発震機構は CMT 解

今回の地震の震央周辺(領域 a)の地震活動を見ると、2026年4月20日のM7.7の地震の発生以降、地震活動域が東西南北に広がって発生していた。今回の地震は、4月20日以降の地震活動域の北西側で発生している。

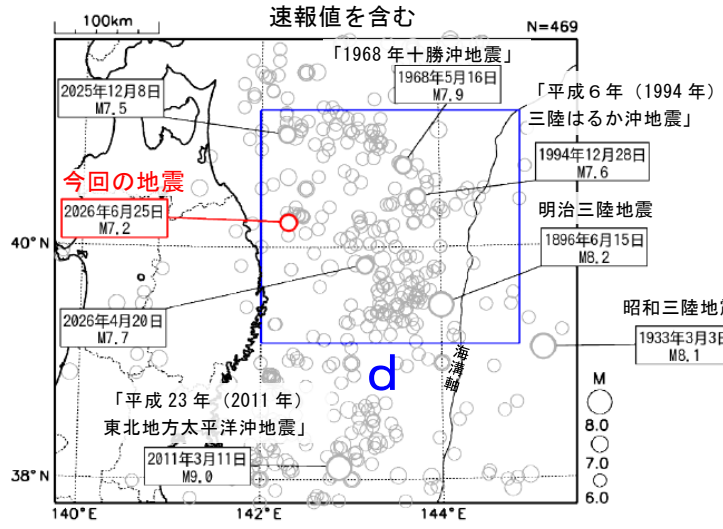
1885年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域 d)では、M7.0以上の地震が時々発生している。1896年6月15日にはM8.2の地震(明治三陸地震)が発生し、死者21,959人などの甚大な被害となった(被害は、日本被害地震総覧による)。また、1968年5月16日には「1968年十勝沖地震」(M7.9、最大震度5)が発生し、青森県八戸[火力発電所]で295cm(平常潮位からの高さ)の津波を観測したほか、死者52人、負傷者330人、住家全壊673棟などの被害が生じた(被害は、日本被害地震総覧による)。



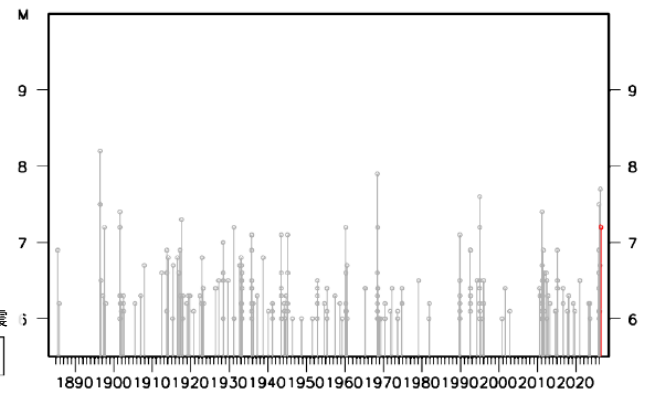
震央分布図

(1885年1月1日～2026年6月25日09時00分、
深さ0～100km、 $M \geq 6.0$)

2026年6月25日の地震を赤色で表示、
速報値を含む



領域 d 内の M-T 図

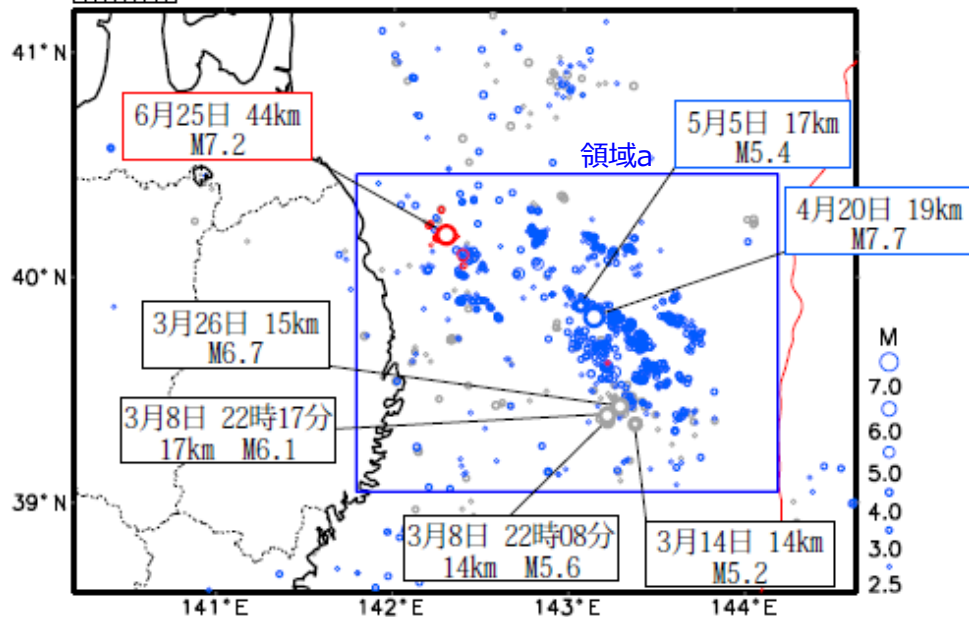


宇津徳治(1982):日本付近のM6.0以上の地震および被害地震の表:1885年～1980年,震研彙報,57,401-463.
 宇津徳治(1985):日本付近のM6.0以上の地震および被害地震の表:1885年～1980年(訂正と追加),震研彙報,60,639-642.
 茅野一郎・宇津徳治(2001):日本の主な地震の表,「地震の事典」第2版,朝倉書店,657pp.

岩手県沖の地震活動（3月以降）

震央分布図

(3月1日～6月3日、深さ0～80km、M \geq 2.5)



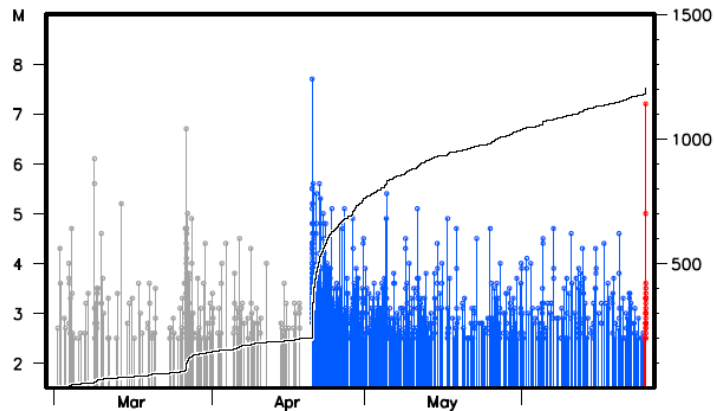
○3月1日～4月20日16時51分

○4月20日16時52分～6月24日

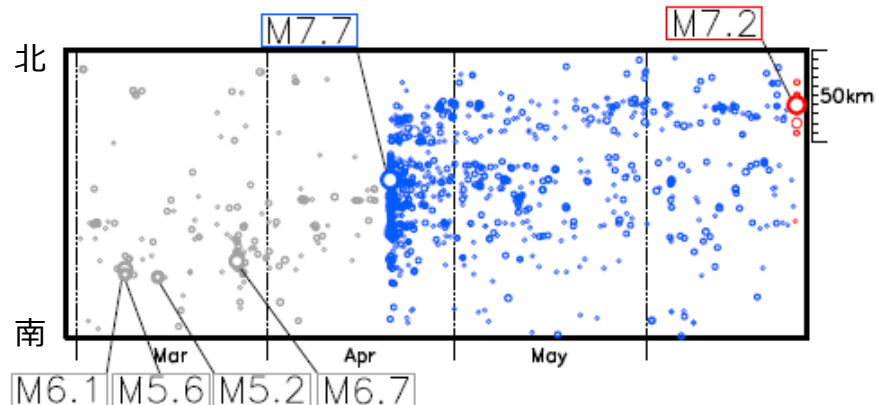
○6月25日～

※6月24日以降の地震は25日07時30分M7.2の地震以外は速報値

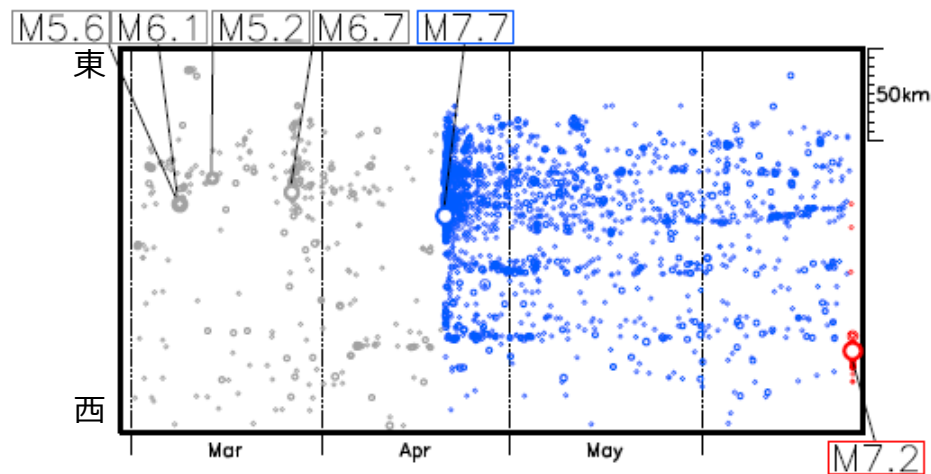
領域a内のM-T図及び回数積算図



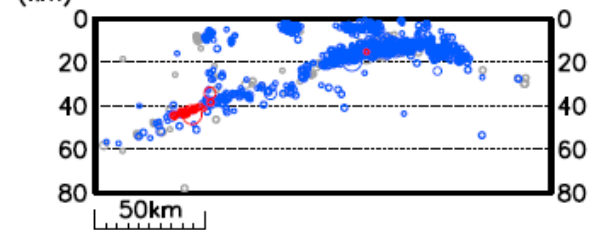
領域a内の時空間分布図（南北投影）



領域a内の時空間分布図（東西投影）

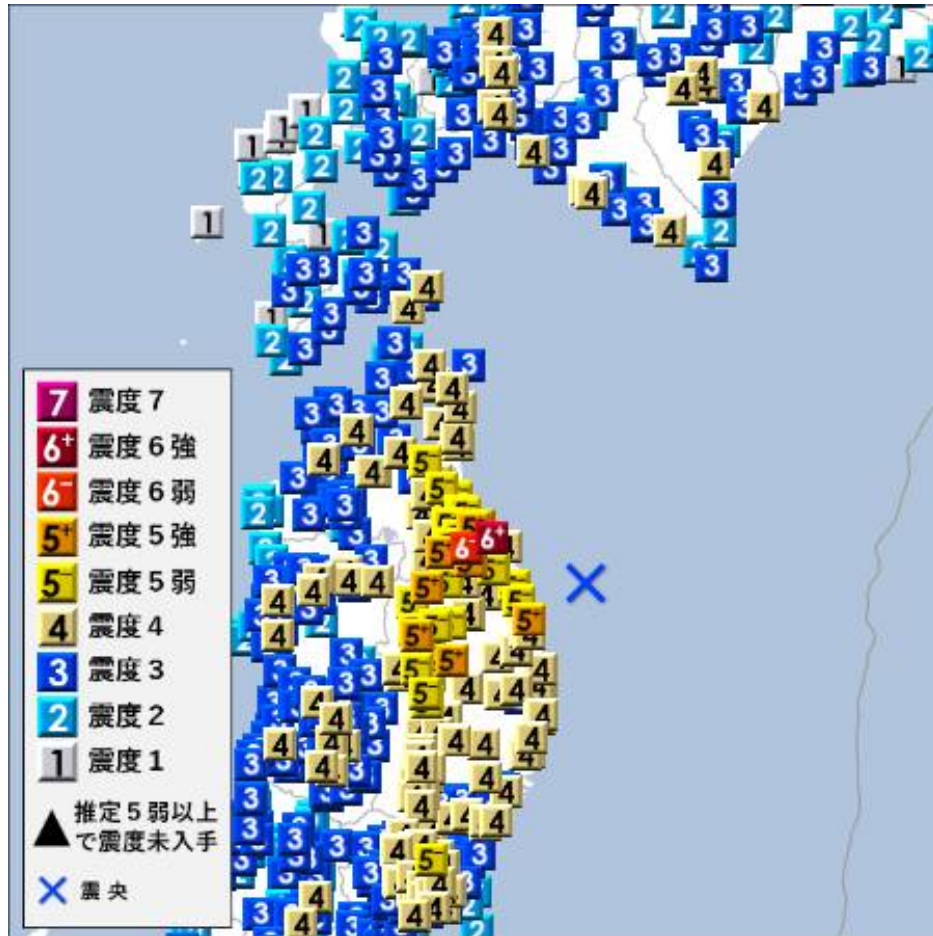


領域a内の断面図



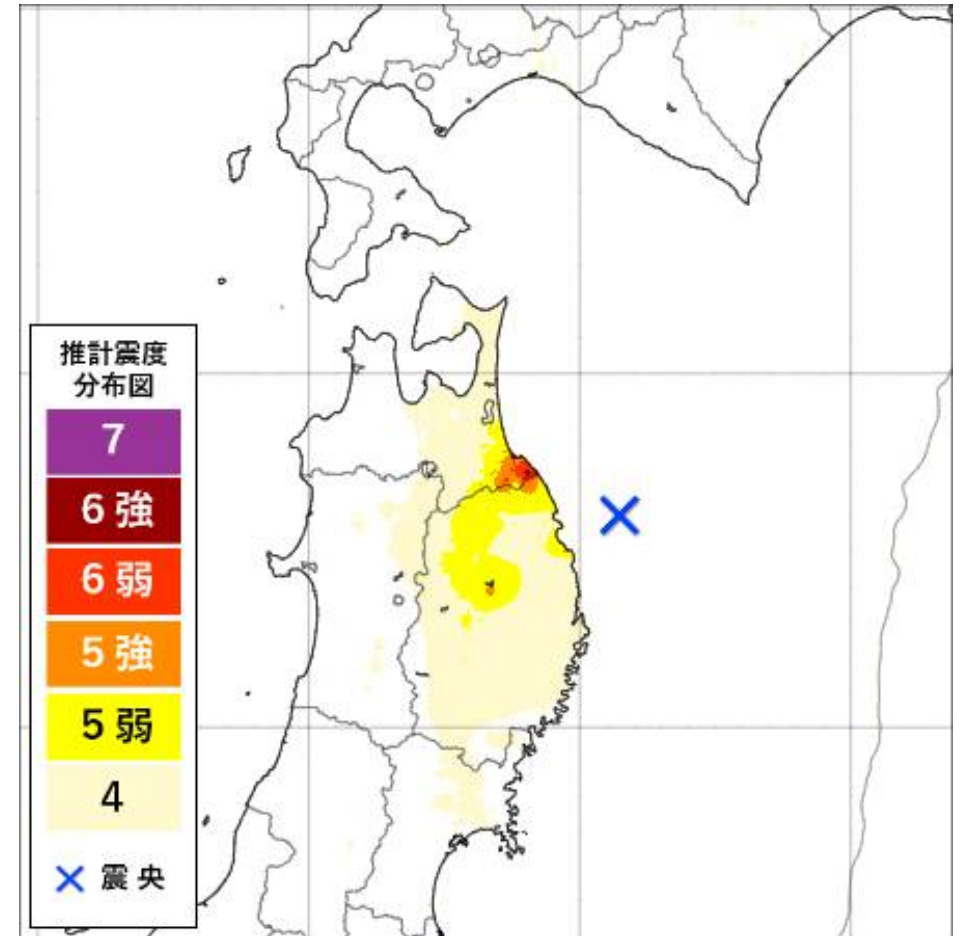
震度分布図・推計震度分布図

【各観測点の震度】



6月25日07時45分発表

推計震度分布図



※留意事項は以下リンクからご確認ください。

最新の情報は、以下のページでご確認ください。

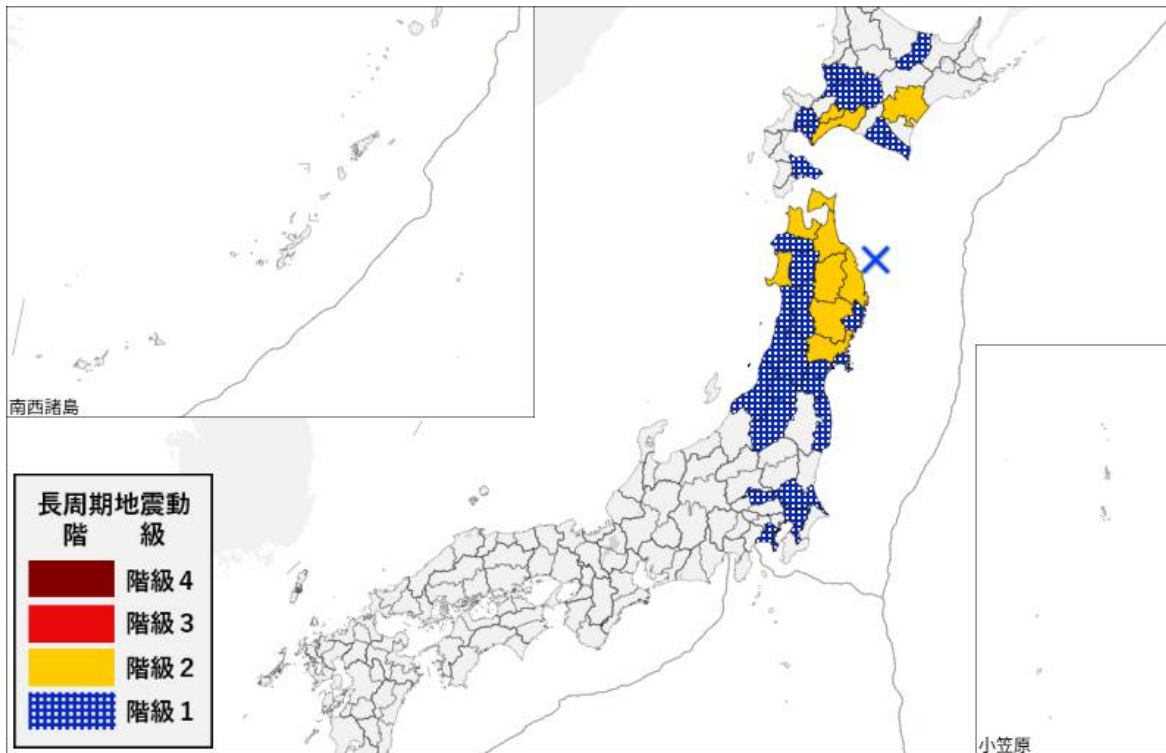
地震情報:https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=earthquake_map

推計震度分布図:https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=estimated_intensity_map

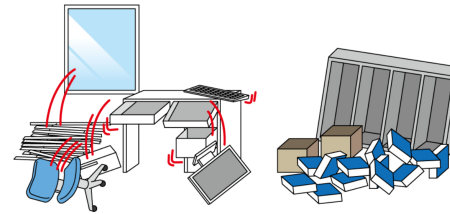
長周期地震動階級の観測状況

階級	地域名称
階級2	石狩地方南部 胆振地方中東部 十勝地方中部 青森県津軽北部 青森県三八上北 青森県下北 岩手県沿岸北部 岩手県内陸北部 岩手県内陸南部 宮城県北部 秋田県沿岸北部

6月25日07時40分発表



階級4



立っていることができない

階級3



立っていることが困難

階級2



物につかまりたいと感じる

階級1

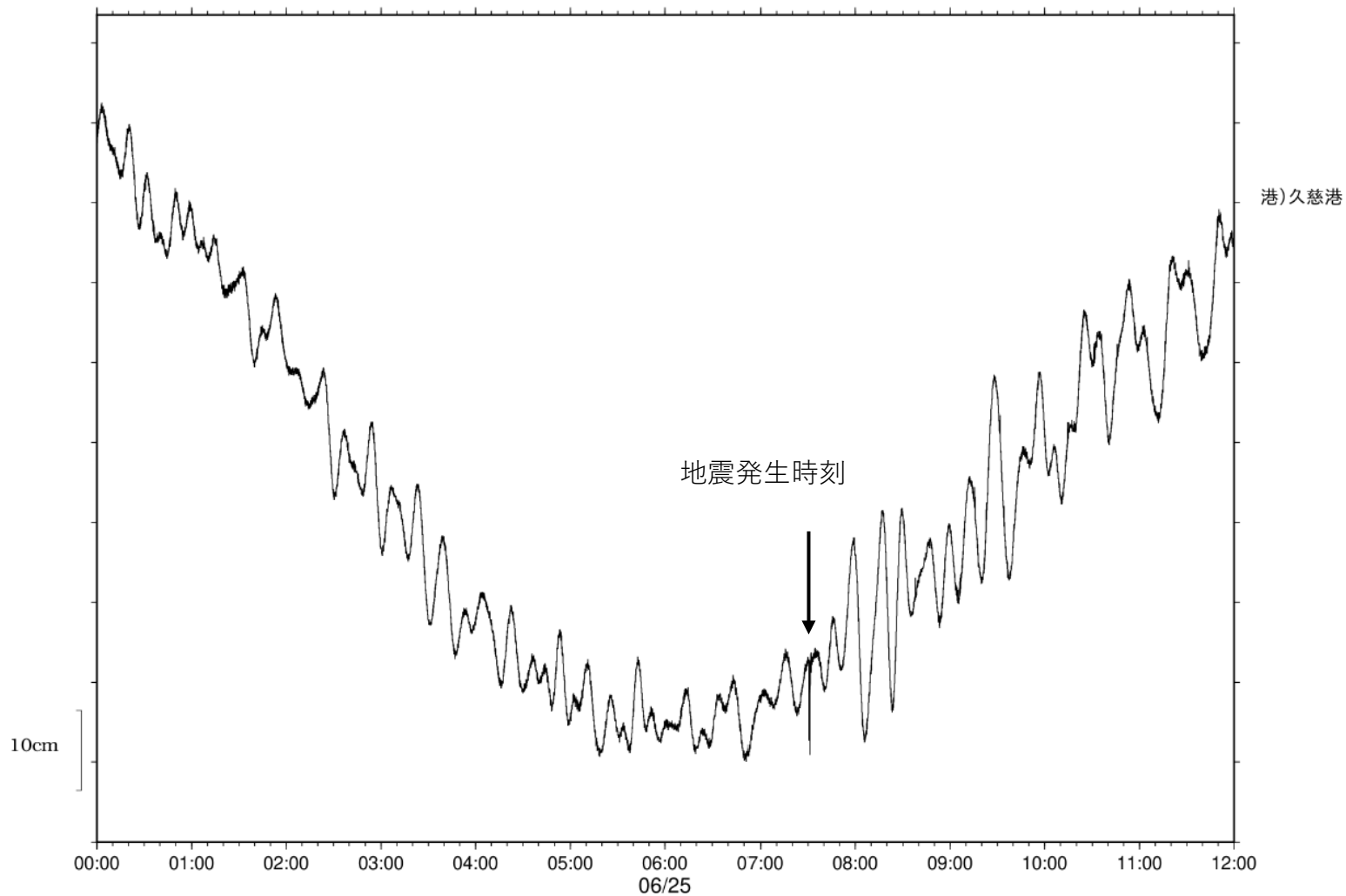


ほとんどの人が揺れを感じる

最新の情報は、以下のページでご確認ください。

長周期地震動に関する観測情報:<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=ltpgm>

2026年6月25日岩手県沖の地震で観測された津波波形



久慈港は国土交通省港湾局の観測点

気象庁作成

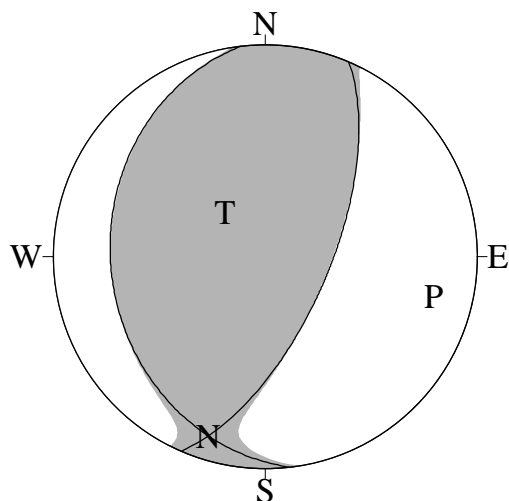
発震機構解

06250730

西北西 - 東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型

[CMT解]

Mw=6.8



下半球等積投影法で描画

P：圧力軸の方向

T：張力軸の方向

セントロイドの位置

北緯 40度20分

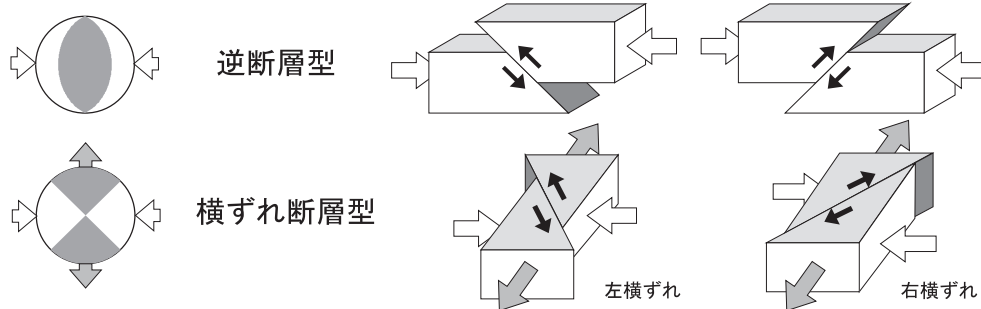
東経 142度19分

深さ 約55km

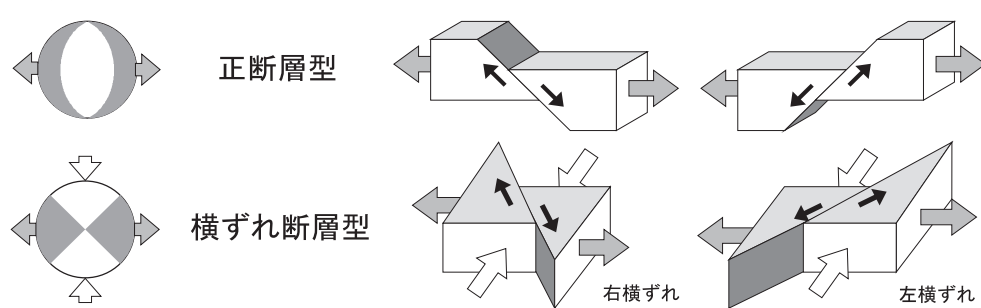
セントロイドの位置とは、地震の断層運動を1点で代表させた場合の位置。

発震機構解 [CMT解] について

圧力軸に注目した場合の例



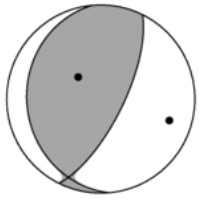
張力軸に注目した場合の例



⇨ ⇩ ⇧ ⇦ 圧力 (押し力) ⇨ ⇩ ⇧ ⇦ 張力 (引く力) ⇨ ⇩ ⇧ ⇦ 断層がずれる方向

気象庁作成

2026年6月25日岩手県沖の地震 (F-netによるメカニズム解)



Mw = 6.9
 Mo [Nm] = 2.26e+19
 NP1: (175, 22, 60)
 NP2: (26, 71, 102)

Var. Red = 94.97
 Percent DC = 99
 Percent CLVD = 1
 Variance = 4.32e-04
 RES/Pdc. = 4.38e-06

— Obs.
 Syn.

2026/06/25 07:30 (Mw 6.9, 深さ50km, 暫定解)
 西北西-東南東圧縮の逆断層

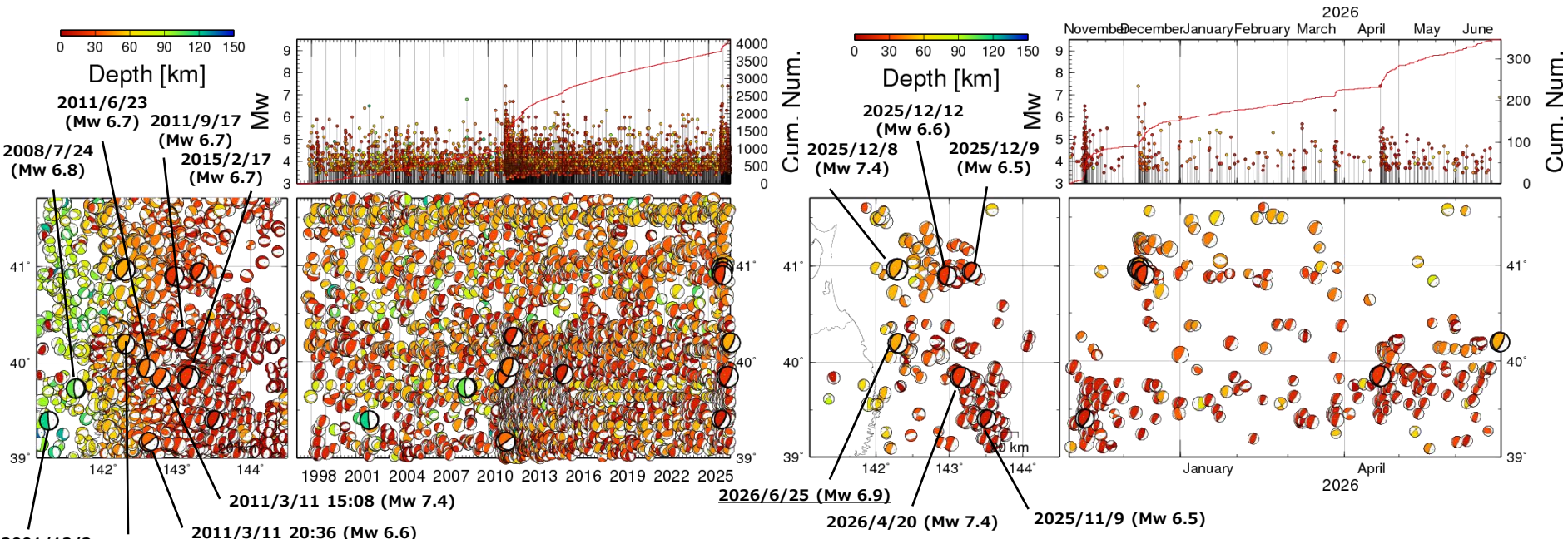
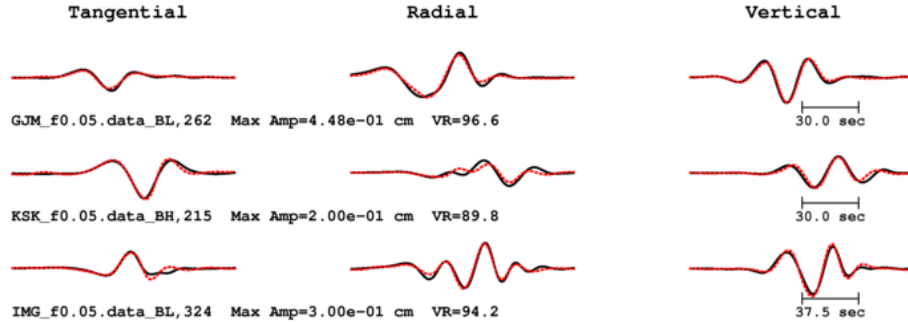


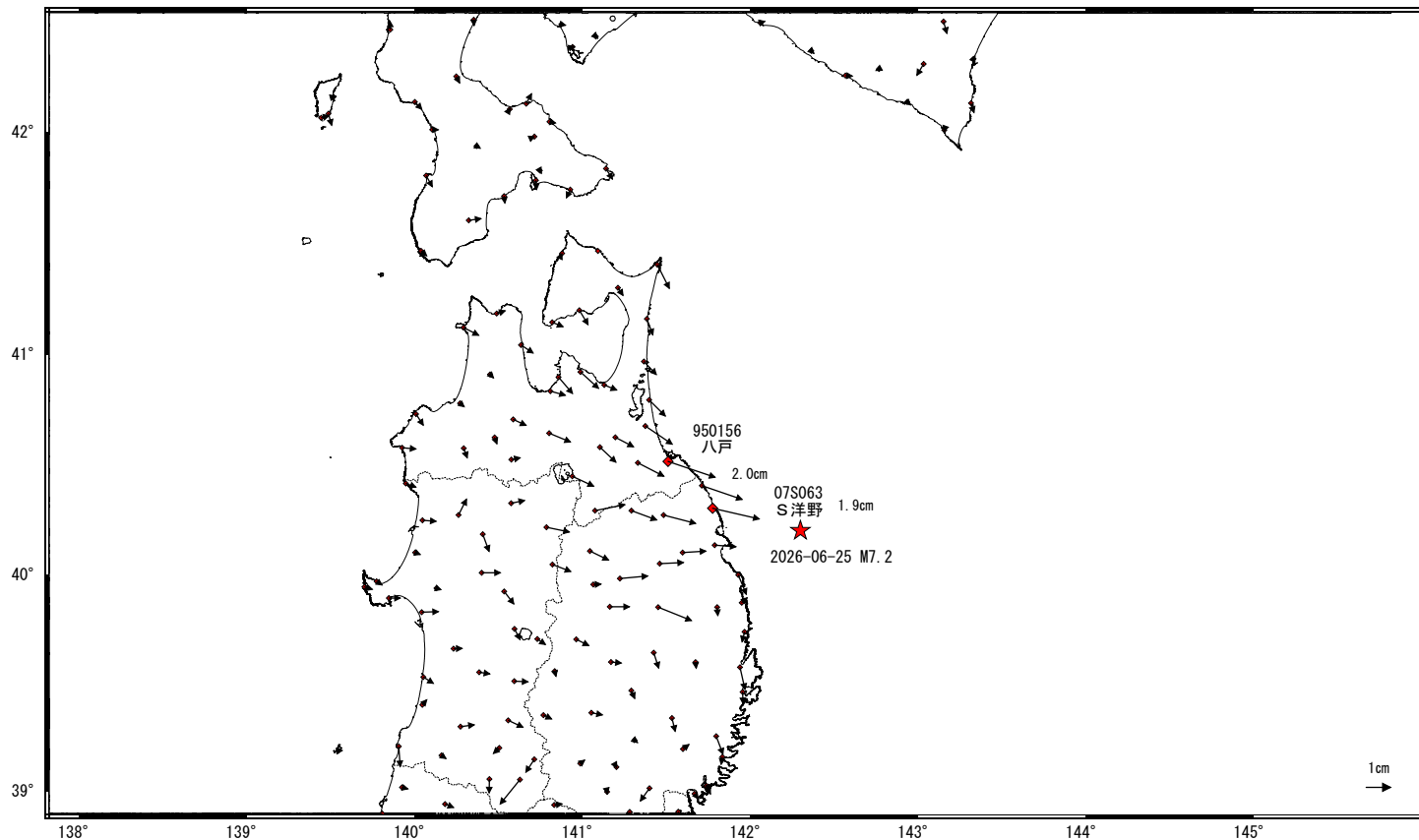
図1 F-netモーメントテンソル解カタログによる1998年以降の周辺の地震活動(深さ150km以浅). Mw6.5以上の地震を太線で示す.

図2 図1のうち2025/11/1以降の地震.

岩手県沖の地震(6月25日 M7.2)前後の観測データ(暫定)

この地震に伴い小さな地殻変動が観測された。
地殻変動(水平)

基準期間: 2026-06-22 00:00~2026-06-23 23:59 [R5.1:速報解]
比較期間: 2026-06-25 12:00~2026-06-25 14:59 [Q5.1:迅速解]

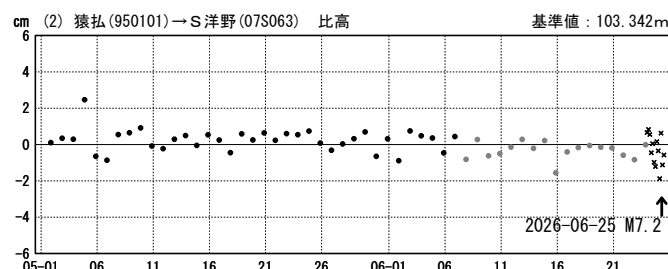
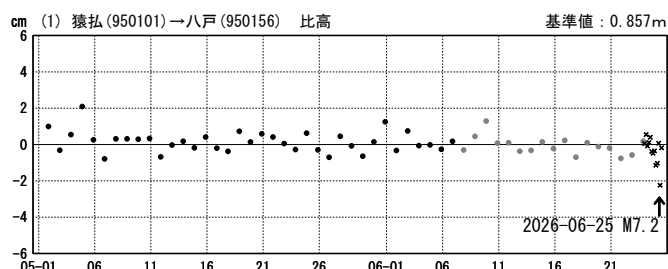
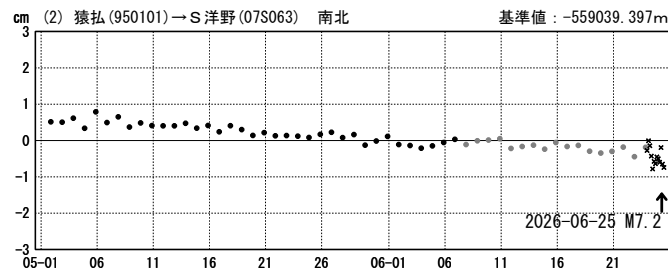
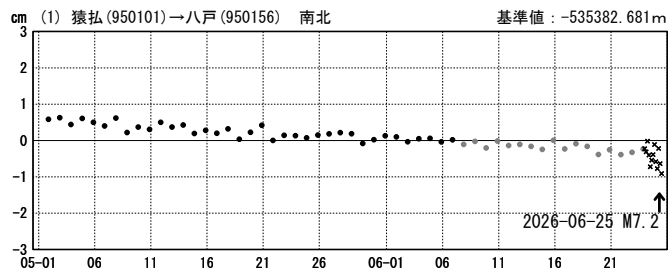
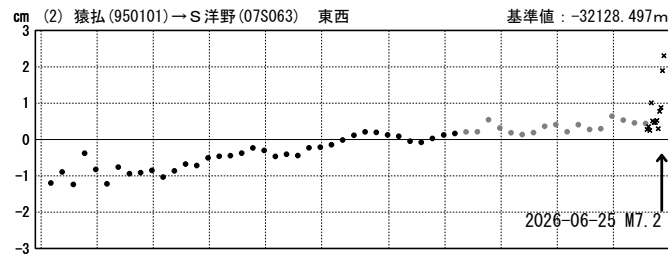
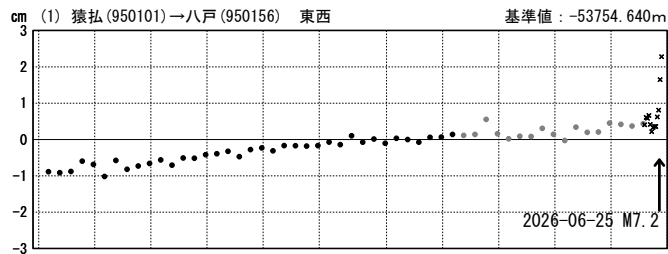


- ★ 震央
- ☆ 固定局: 猿払 (950101) (北海道)
- ◆ 観測局 (グラフ表示)

成分変化グラフ

期間: 2026-05-01~2026-06-25 JST

期間: 2026-05-01~2026-06-25 JST



●— [F5.1:最終解] ●— [R5.1:速報解] ×— [Q5.1:迅速解]

4月20日からの三陸沖から岩手県沖にかけての地震活動の最大震度別地震回数表

震度1以上の最大震度別地震回数表(2026年4月20日16時00分～6月25日13時00分)

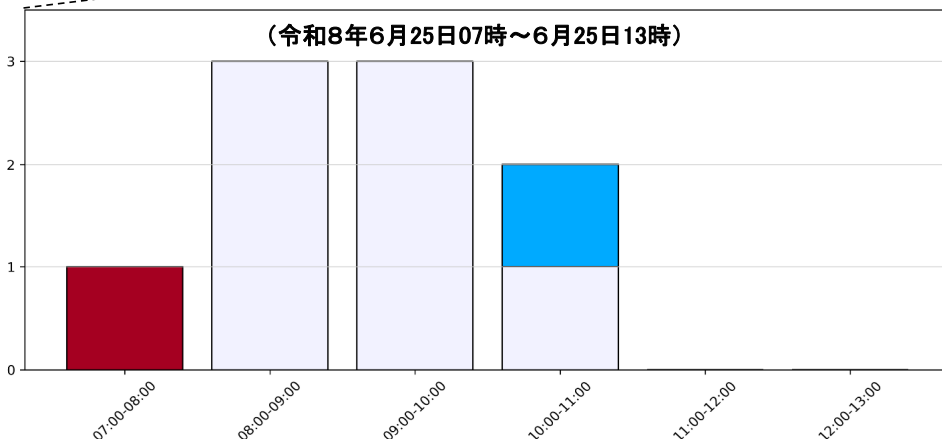
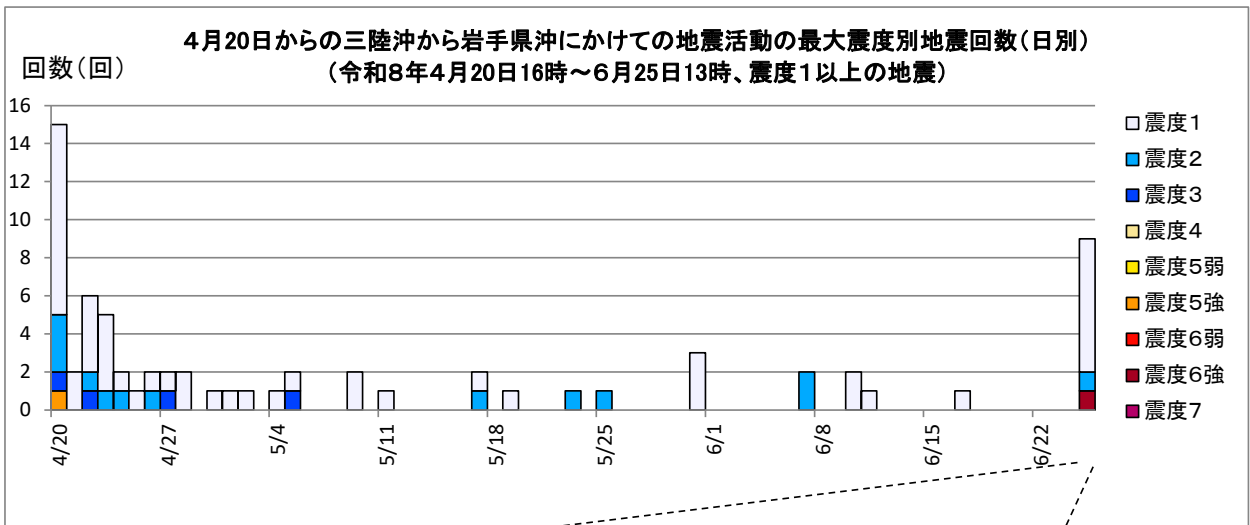
(注)掲載している値は速報のもので、その後の調査で変更する場合があります。

【令和8年4月20日16時以降の月別発生回数】

月別	最大震度別回数										震度1以上を 観測した回数		備考
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計		
4/20 - 30	27	7	3	0	0	1	0	0	0	0	38	38	16時以降
5/1 - 31	12	3	1	0	0	0	0	0	0	0	16	54	
6/1 - 25	11	3	0	0	0	0	0	1	0	0	15	69	6月25日13時時点
総計	50	13	4	0	0	1	0	1	0	0	69	69	6月25日13時時点

【令和8年6月25日07時以降の時別発生回数】

時間別	最大震度別回数										震度1以上を 観測した回数		備考
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計		
6/25 07時-08時	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	6月25日13時時点
08時-09時	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4	
09時-10時	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	7	
10時-11時	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	9	
11時-12時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	
12時-13時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	
総計	7	1	0	0	0	0	0	1	0	0	9	9	



岩手県沖の地震（6月25日 M7.2）の震源断層モデル（暫定）

- ・ 基準期間：2026年6月18日 06:00—2026年6月25日 05:59 JST（迅速（Q5.1）解）
- ・ 比較期間：2026年6月25日 09:00—2026年6月25日 14:59 JST（迅速（Q5.1）解）
- ・ 固定局：猿払（950101）

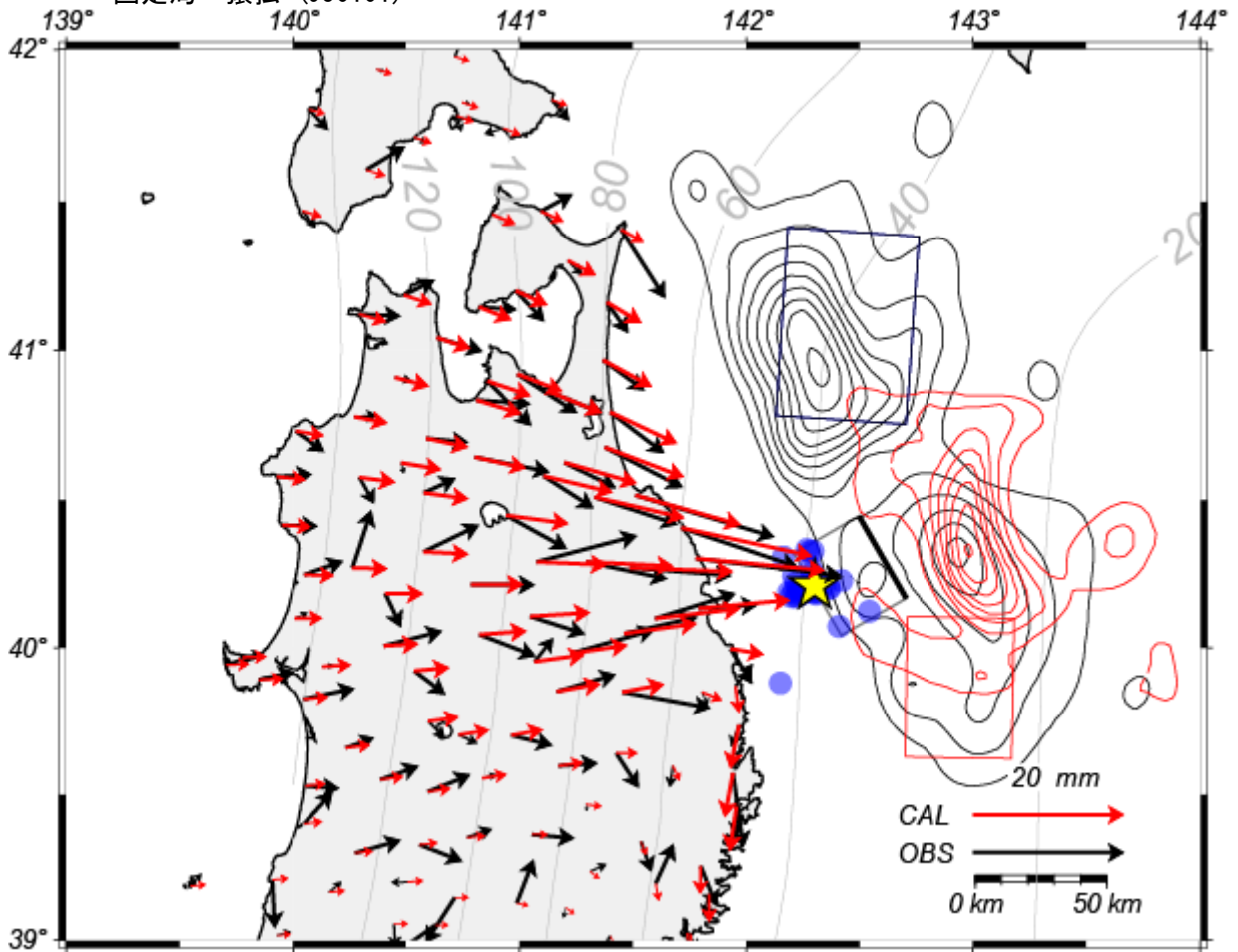


図1 推定された震源断層モデル。矩形実線は震源断層モデルを地表に投影した位置で、太い実線が断層上端。矢印は水平方向の観測値（黒）及び計算値（赤）。黒等値線は1968年十勝沖地震、赤等値線は平成6年（1994年）三陸はるか沖地震のアスぺリティ（永井・他，2001）。黒四角は、2025年12月08日に発生した青森県沖の地震の矩形断層モデル、赤四角は2026年04月20日に発生した三陸沖の地震の矩形断層モデル。星印は今回の地震の震央、青色の点は本震発生以降から6/25 12:18（JST）までに発生した震源（気象庁自動震源を使用）。

表1 推定された震源断層モデルパラメータ

緯度 [°]	経度 [°]	上端深さ [km]	長さ [km]	幅 [km]	走向 [°]	傾斜 [°]	すべり角 [°]	すべり量 [m]	M _w
40.455	142.450	39.0	35.6	35.6	143.2	38.7	16.0	0.51	6.87
(0.08)	(0.17)	(14.5)	(7.7)	(7.7)	(16.0)	(14.4)	(26.0)	(0.16)	(0.02)

- ・ マルコフ連鎖モンテカルロ（MCMC）法を用いてモデルパラメータを推定した。
- ・ 位置は断層の左上端を示す。括弧内は誤差（1σ）を示す。
- ・ M_wと断層長さ・断層幅の関係をスケーリング則（Strasser et al. 2010）で拘束。
- ・ M_wの計算においては、剛性率を40 GPaと仮定。

2026年6月25日7時30分頃に岩手県沖で発生した地震（Mj 7.2; 気象庁）について、強震波形記録を用いた震源イメージング解析を行った。

- 記録：K-NET・KiK-net・F-netの15観測点における速度波形三成分のS波部分（0.08–0.8 Hz）
- 解析手法：マルチタイムウィンドウ線形波形イメージング
（小断層3 km × 3 km、1.0秒幅のタイムウィンドウを0.5秒ずらして5個並べる）
- 断層面設定：走向175°・傾斜22°（F-net解による）、大きさ33 km × 27 km、破壊開始点はHi-net震源位置
*ここで設定した断層面は解析の都合上仮定したものであり、必ずしも実際の断層面を反映しているわけではないことに留意
- 推定結果： $M_0=1.8 \times 10^{19}$ Nm (M_w 6.8)、最大すべり量1.4m、Vftw 4.4 km/s
主たる破壊は破壊開始点付近に集中し、主に西に伝播した。

図1：観測点の分布と断層面の地表投影。星印は破壊開始点を示す。

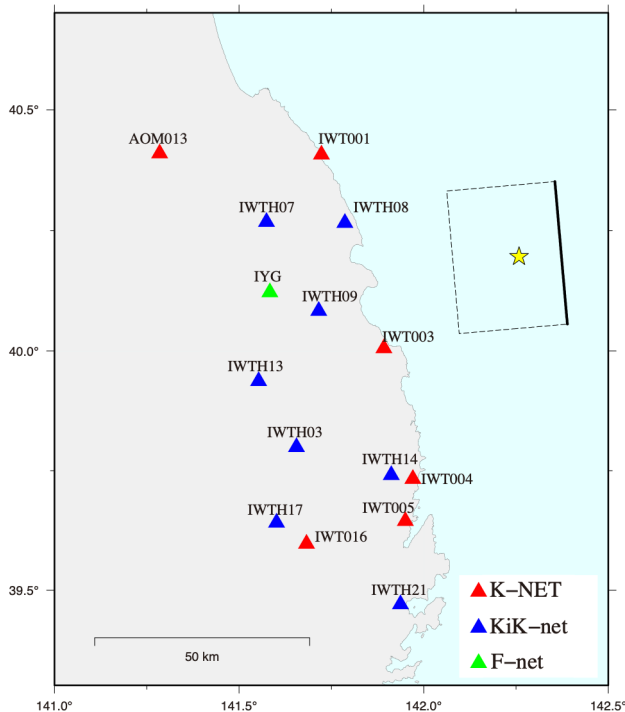
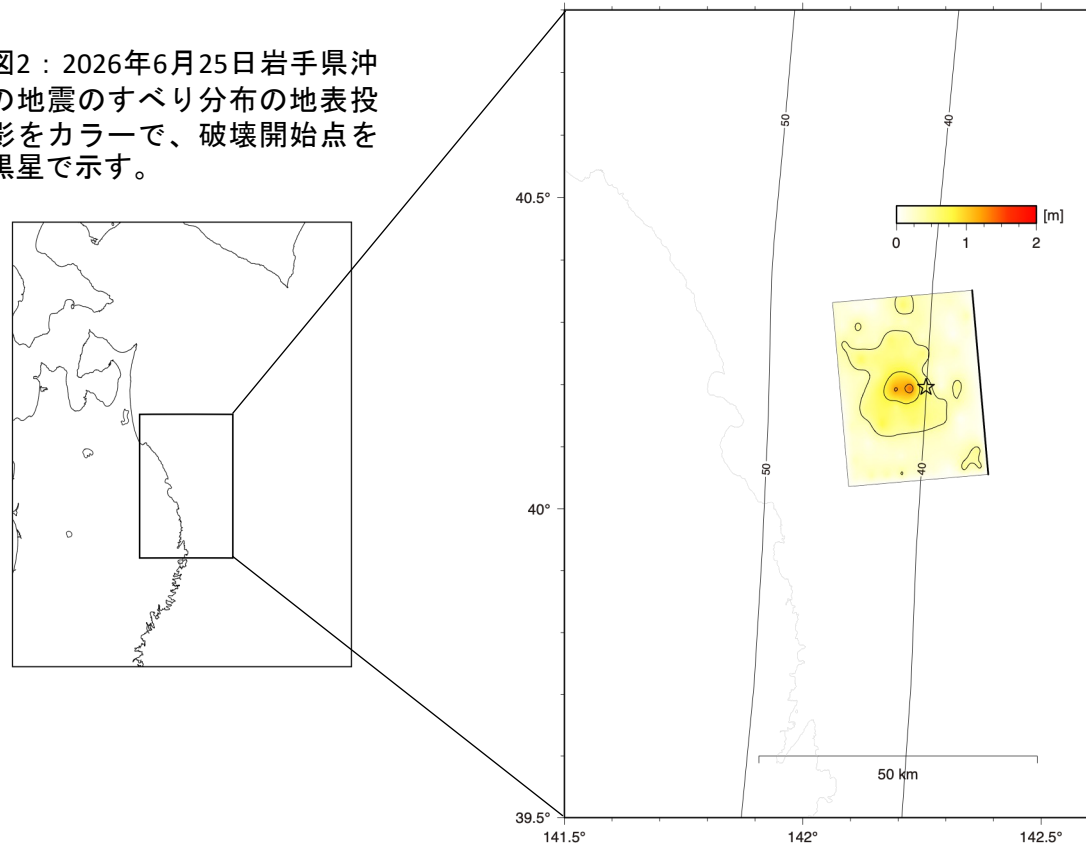


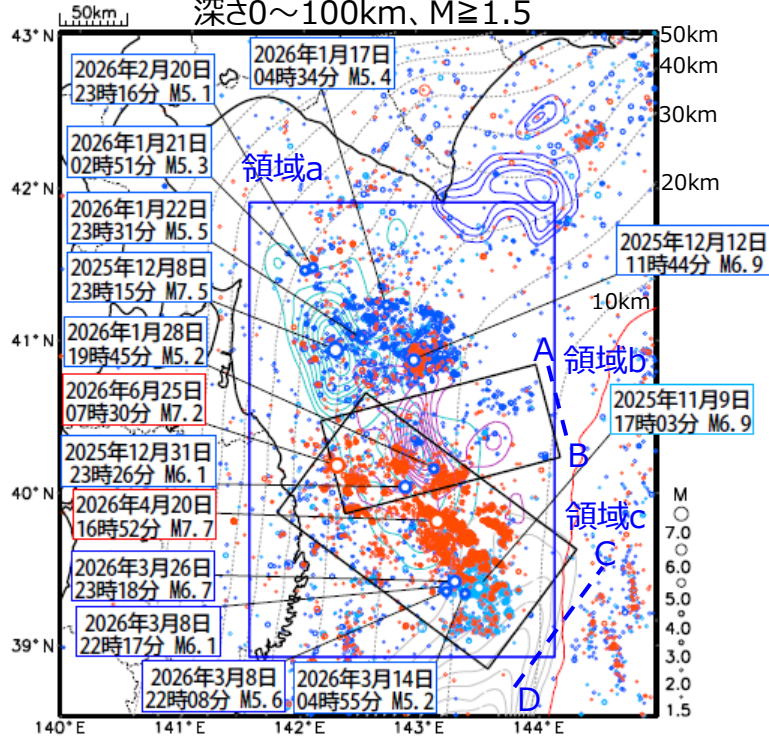
図2：2026年6月25日岩手県沖の地震のすべり分布の地表投影をカラーで、破壊開始点を黒星で示す。



青森県東方沖・岩手県沖・三陸沖 周辺の地震活動

震央分布図

2025年11月1日～2026年6月25日09時、
深さ0～100km、 $M \geq 1.5$



- 2025年11月1日～12月8日23時14分
- 2025年12月8日23時15分～2026年4月20日16時51分
- 2026年4月20日16時52分～6月25日09時
- ※6月24日以降の地震は25日07時30分M7.2の地震以外は速報値

色付きのコンターは主な地震のすべり分布

青色：2003年十勝沖地震 (Yamanaka and Kikuchi, 2003)

水色：1968年十勝沖地震 (永井・他, 2001)

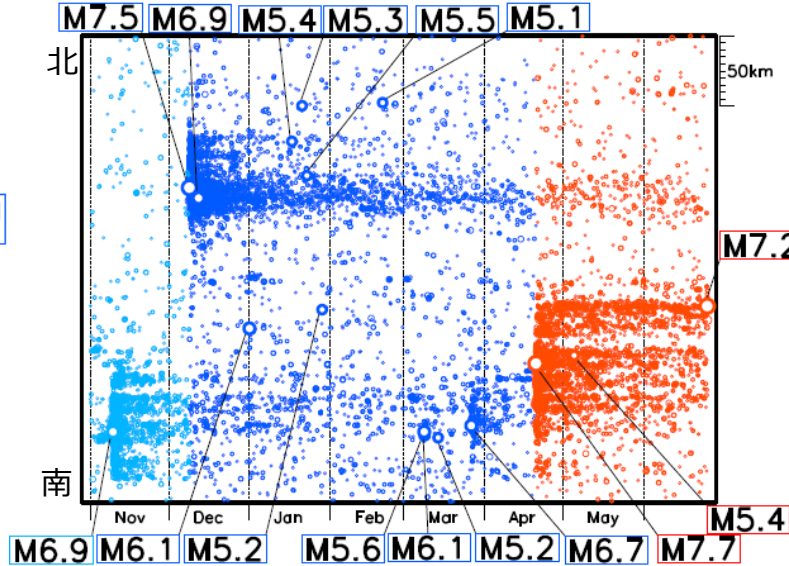
紫色：1994年三陸はるか沖地震 (永井・他, 2001)

灰色：2011年東北地方太平洋沖地震 (Yoshida et al., 2011)

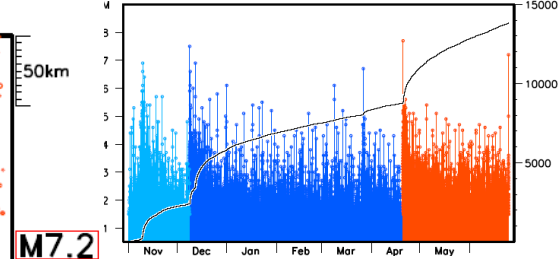
黒色破線は太平洋プレート上面のおよその深さ

Kita et al. (2010)及びNakajima and Hasegawa (2006)

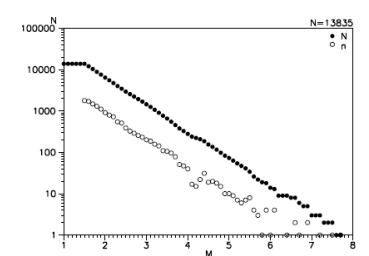
領域a内の時空間分布図 (南北投影)



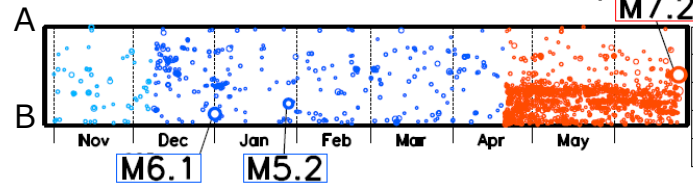
領域a内のM-T図及び回数積算図



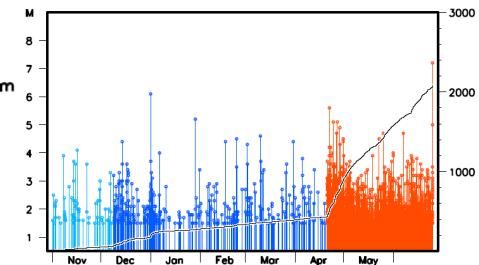
領域a内のM別頻度分布図



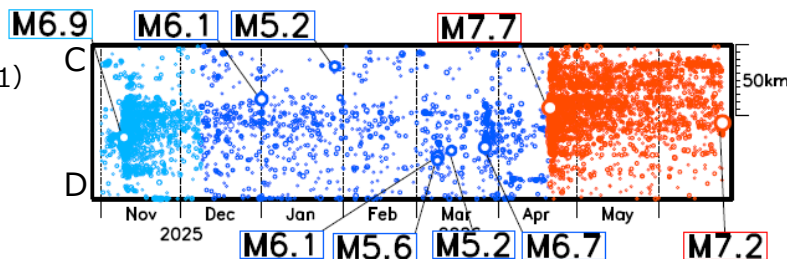
領域b内の時空間分布図 (A-B投影)



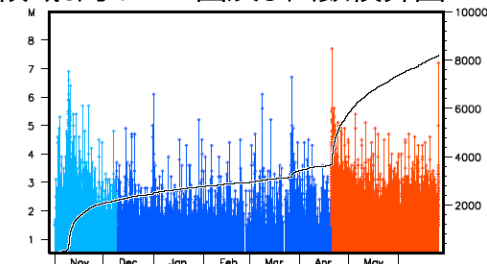
領域b内のM-T図及び回数積算図



領域c内の時空間分布図 (C-D投影)

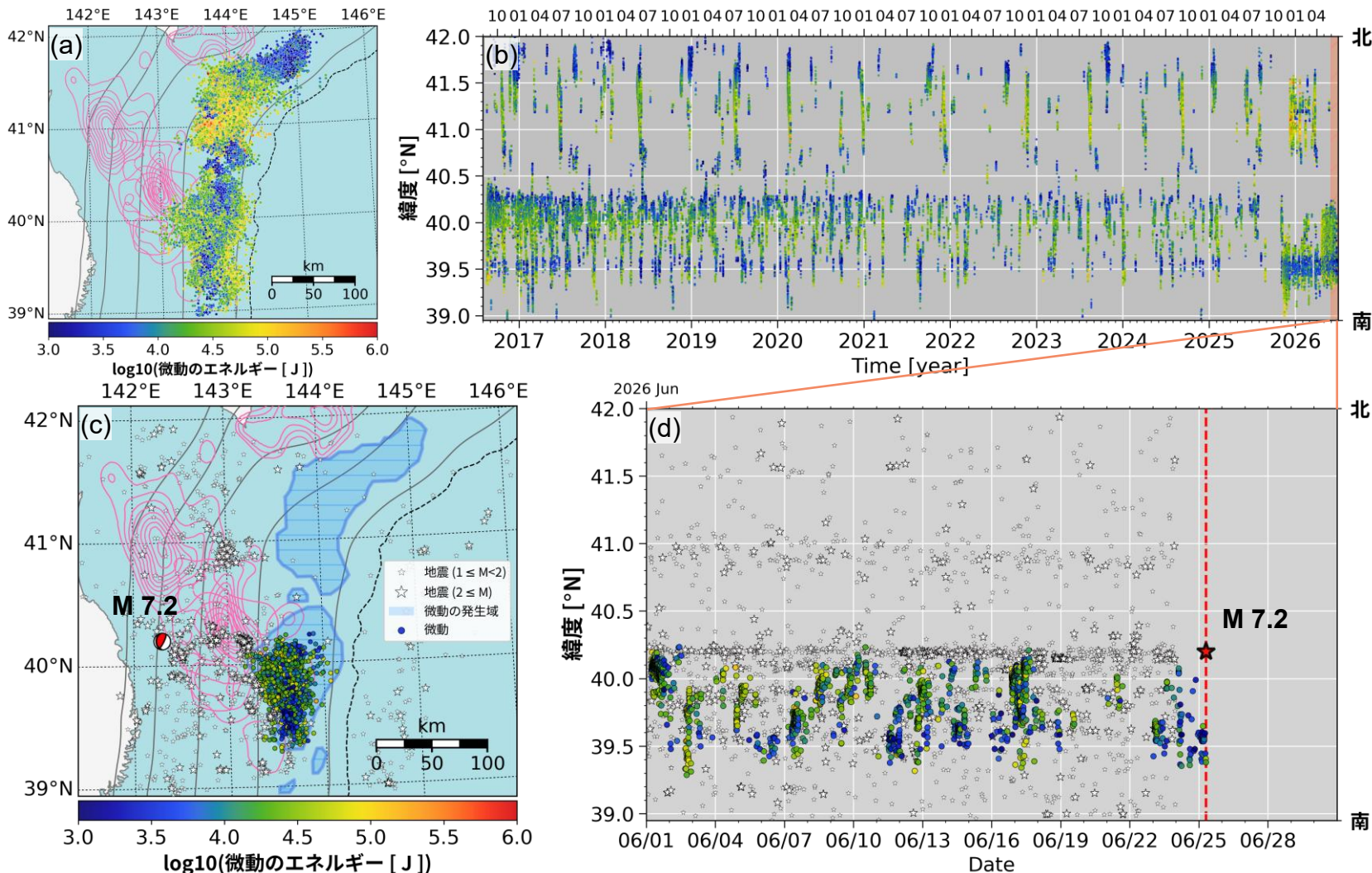


領域c内のM-T図及び回数積算図



2026年6月の日本海溝北部における微動活動

• 三陸沖で4月20日のM7.7の地震後から継続する微動活動を観測



(a-b) 2016/08/15 から 2026/06/25 09:59:59 までの微動分布
 (c-d) 2026/06/01 から 2026/06/25 09:59:59 までの微動分布
 ※ Sagae et al. (2025) の手法で解析した

謝辞: 2026/06/01-2026/06/23 までの気象庁一元化震源カタログを使用しました。防災科学技術研究所S-netの地震波形データ、F-net Project による広帯域地震波形を用いたメカニズム解析結果を使用しました。文部科学省「情報科学を活用した地震活動・地震動評価技術の高度化事業」(JPJ013735)の助成を受けたものです。記して感謝申し上げます。

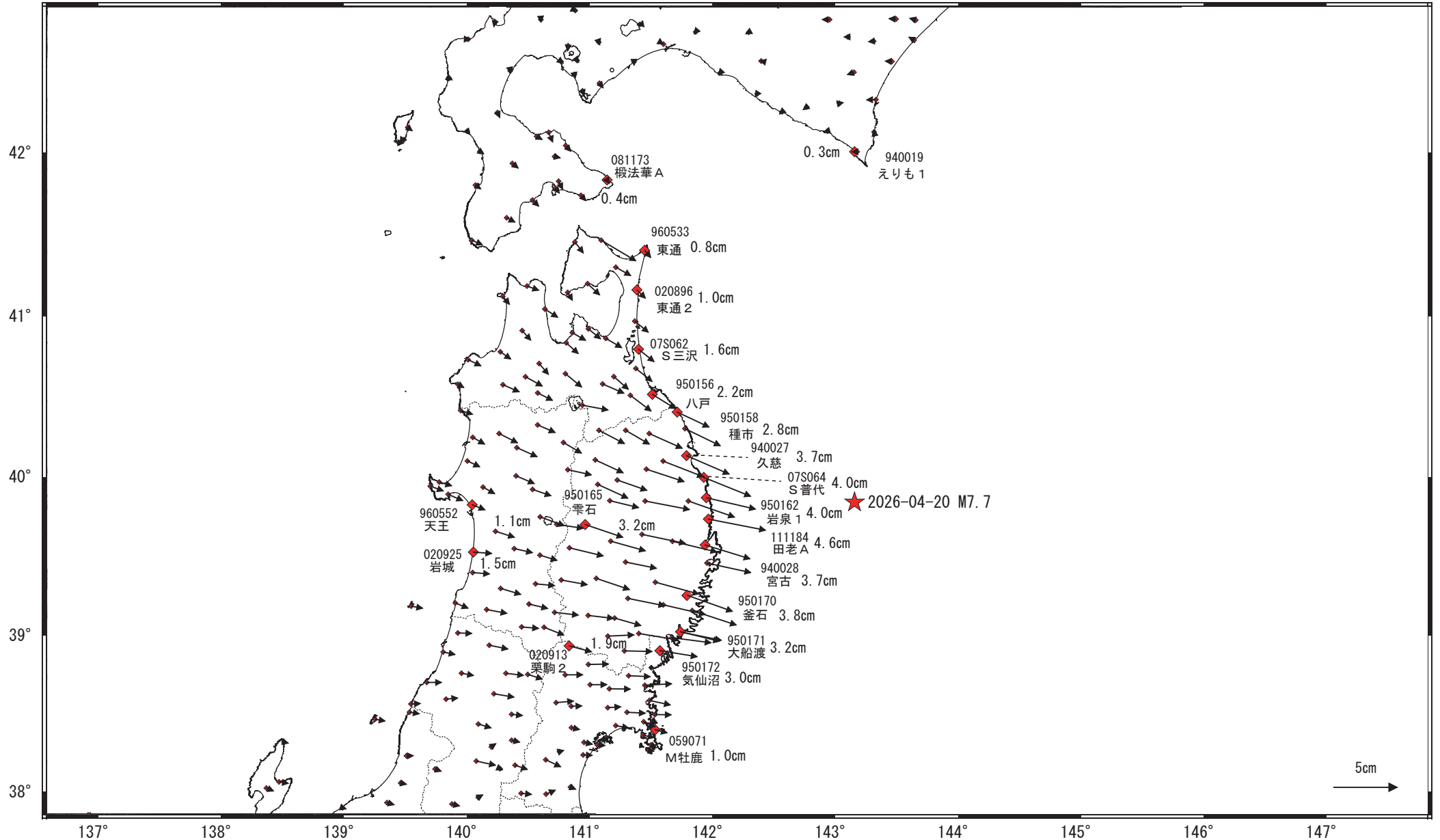
三陸沖の地震(4月20日 M7.7)後の観測データ(暫定)

この地震に伴い余効変動が観測されている。

地殻変動(水平)

基準期間:2026-04-21~2026-04-21[F5.1:最終解]

比較期間:2026-06-21~2026-06-23[R5.1:速報解]



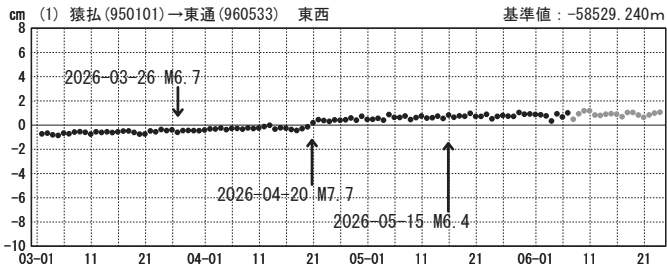
★震央 ◆観測局(グラフ表示)

☆固定局:猿払(950101)(北海道)

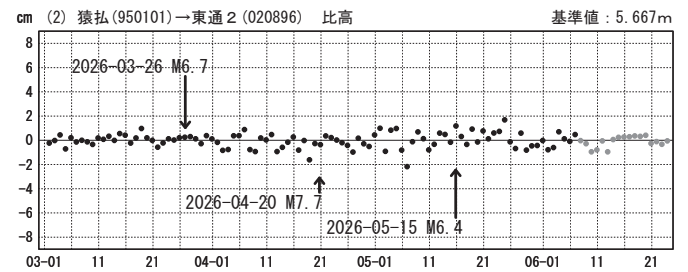
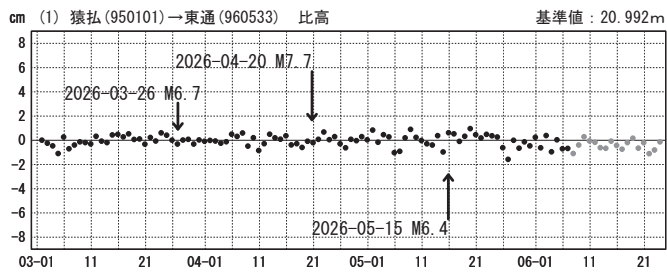
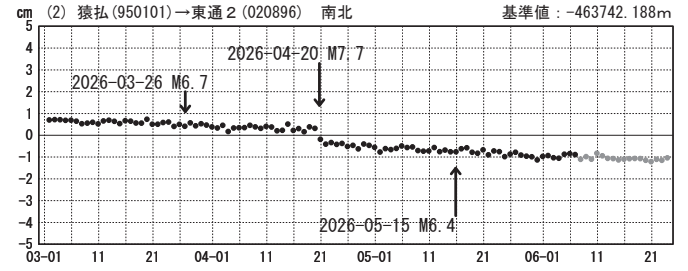
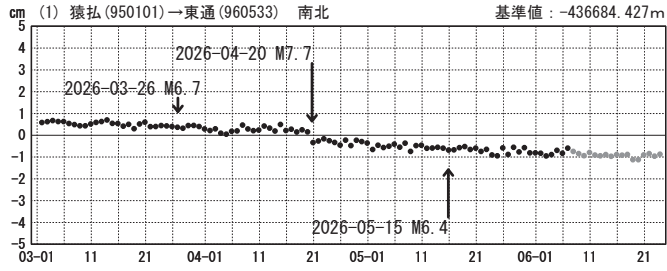
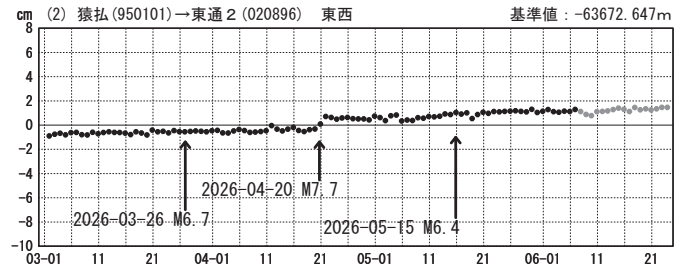
※5月15日の宮城県沖の地震に伴う地殻変動を含んでいる。

成分変化グラフ

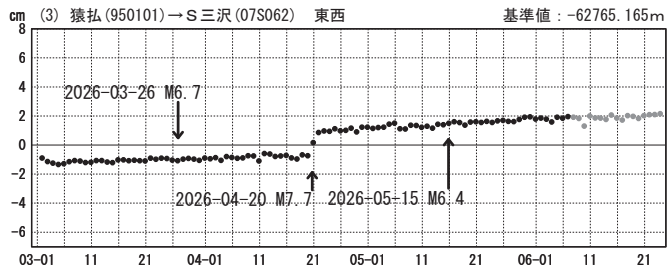
期間：2026-03-01～2026-06-23 JST



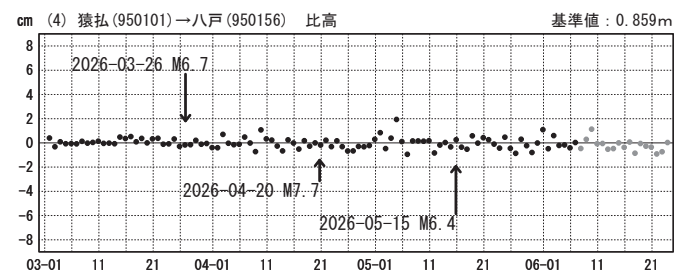
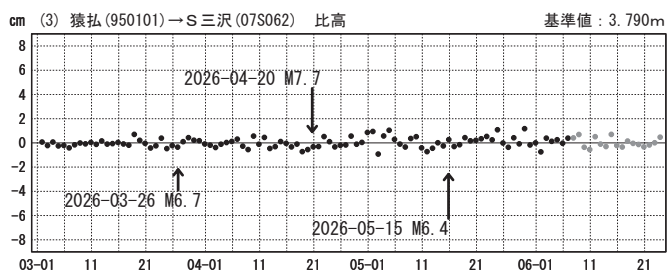
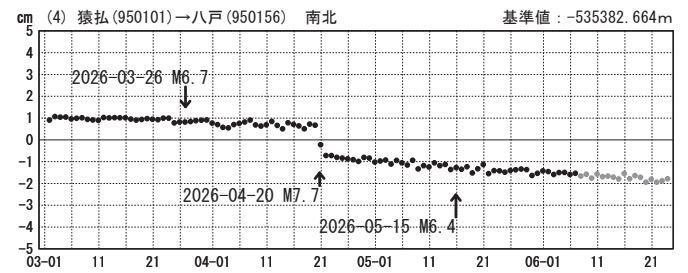
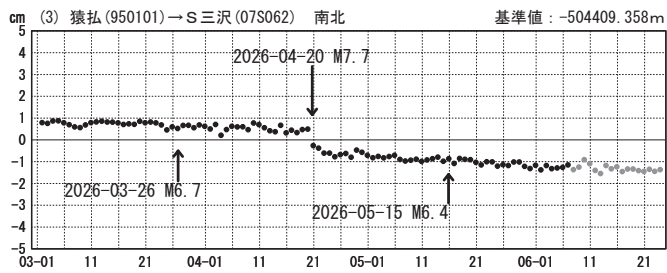
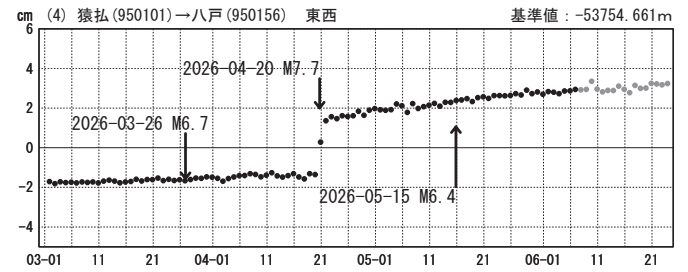
期間：2026-03-01～2026-06-23 JST



期間：2026-03-01～2026-06-23 JST



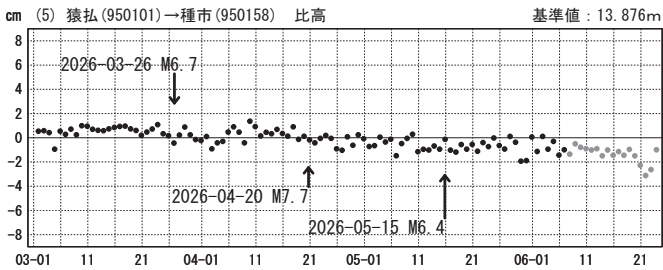
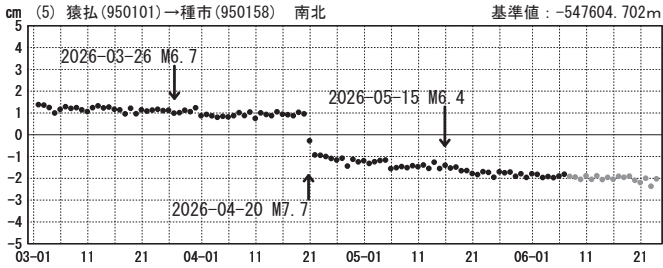
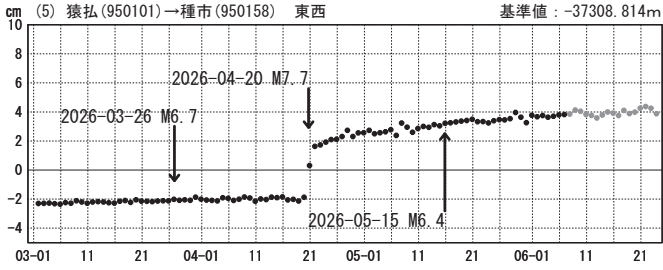
期間：2026-03-01～2026-06-23 JST



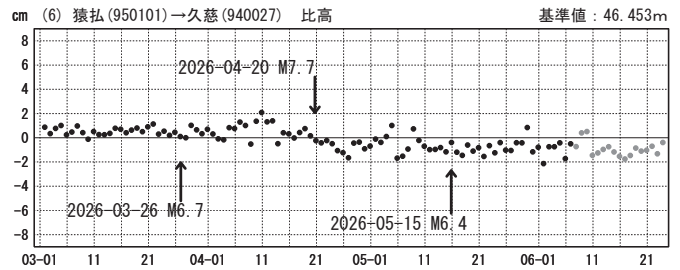
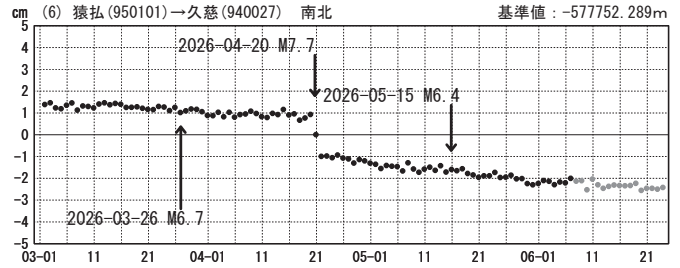
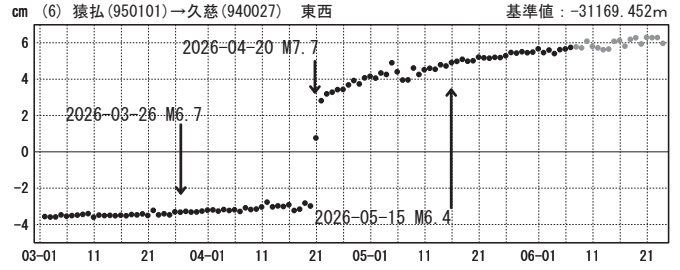
●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

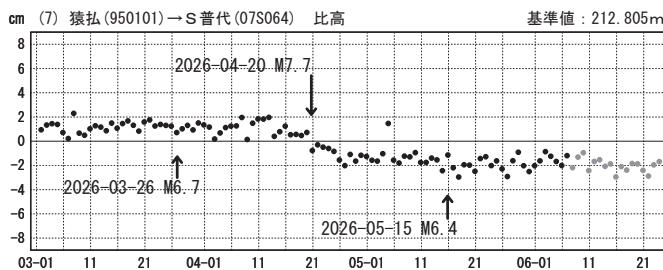
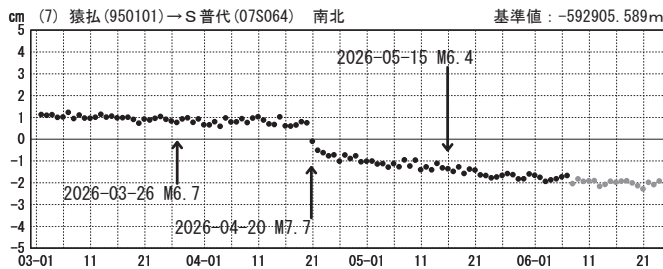
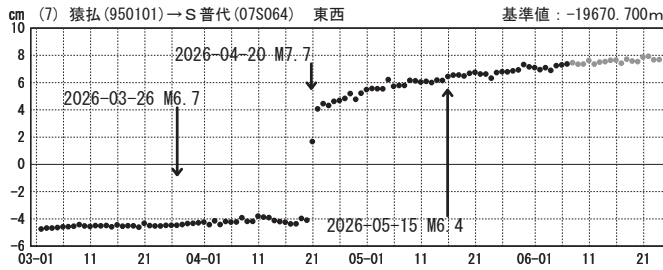
期間：2026-03-01～2026-06-23 JST



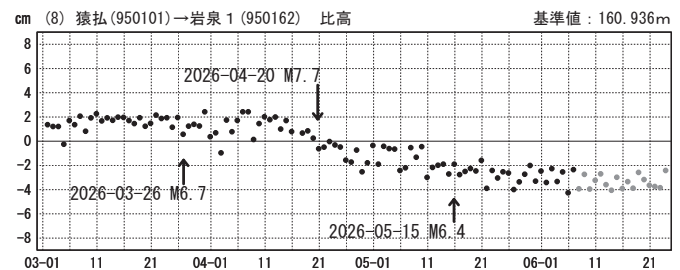
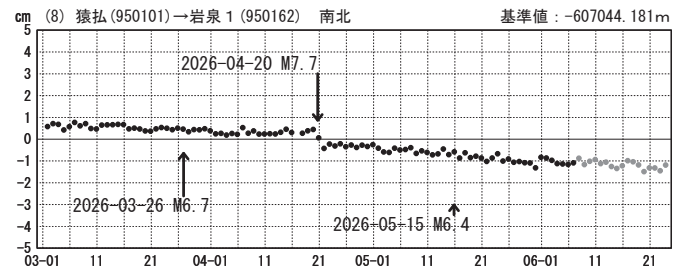
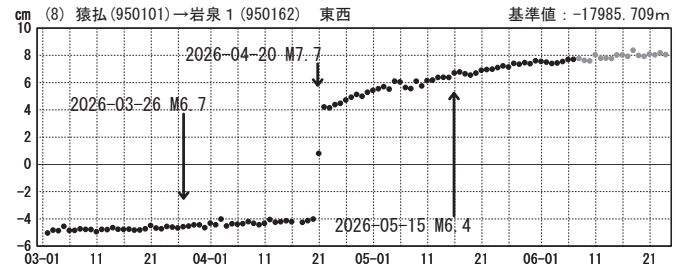
期間：2026-03-01～2026-06-23 JST



期間：2026-03-01～2026-06-23 JST



期間：2026-03-01～2026-06-23 JST

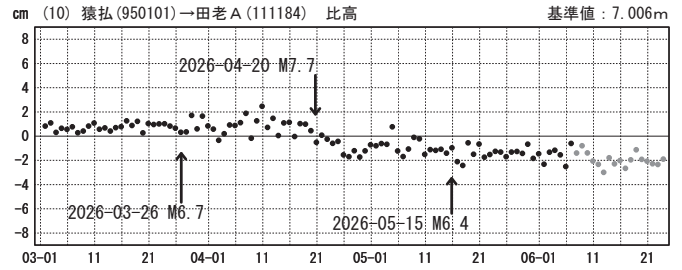
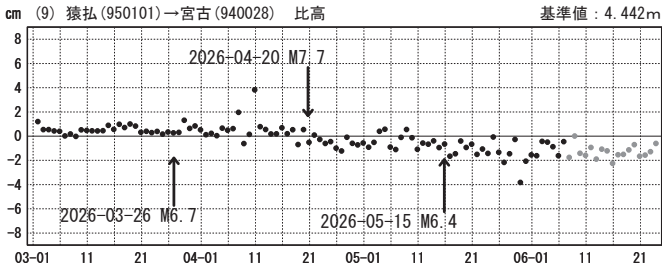
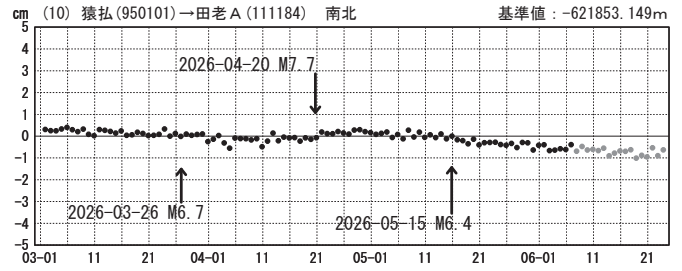
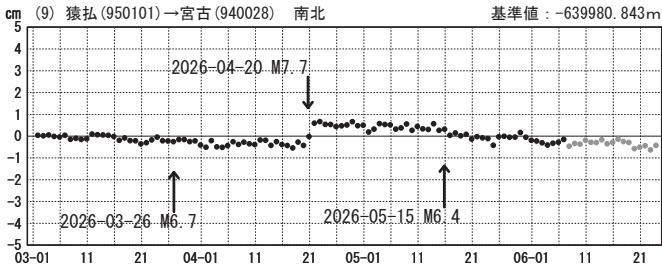
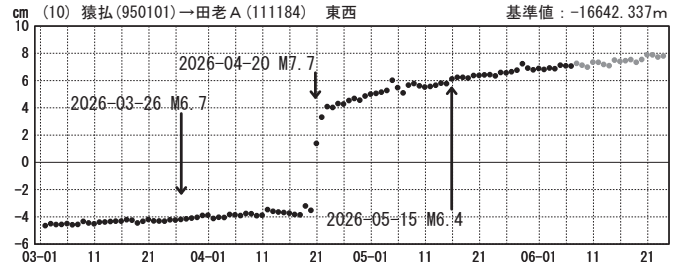
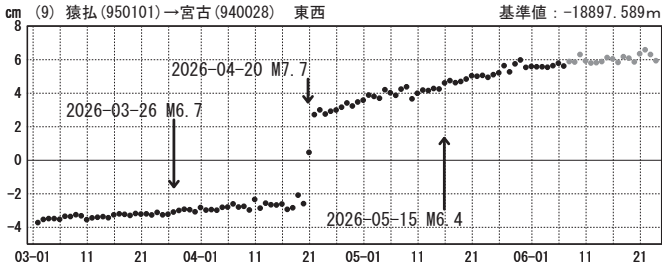


●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

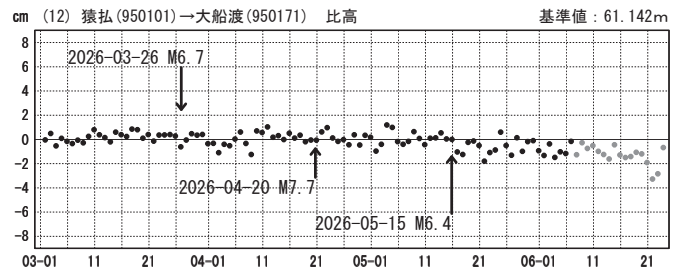
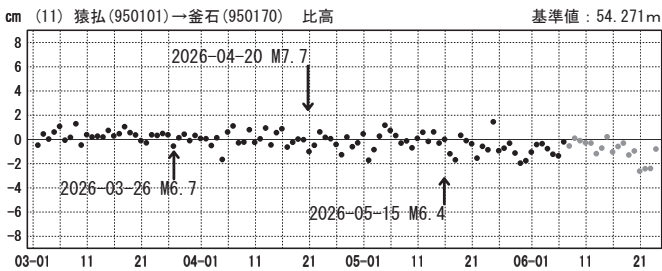
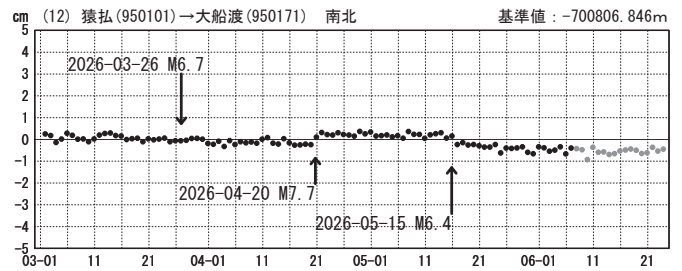
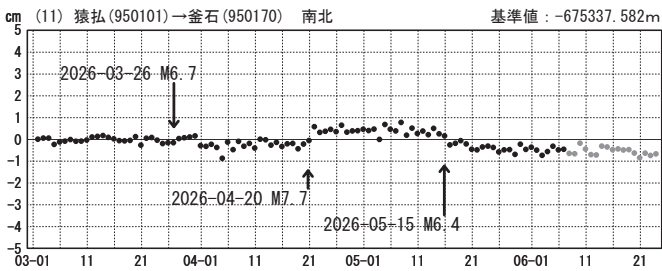
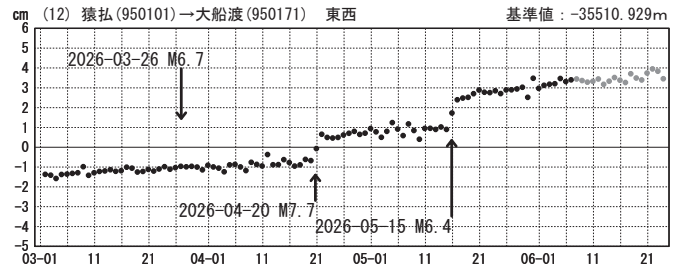
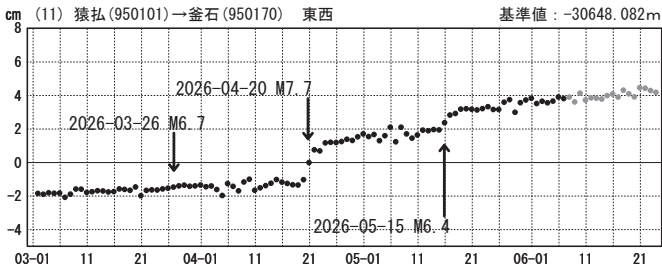
期間：2026-03-01～2026-06-23 JST

期間：2026-03-01～2026-06-23 JST



期間：2026-03-01～2026-06-23 JST

期間：2026-03-01～2026-06-23 JST

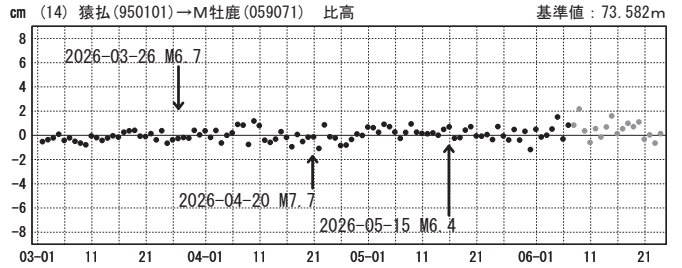
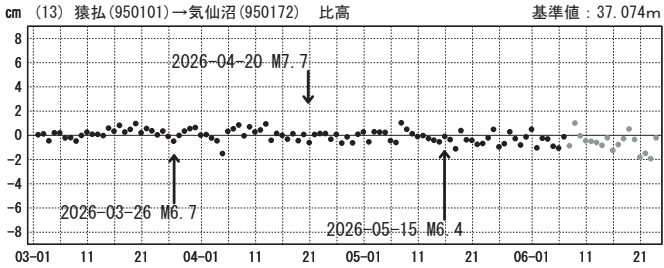
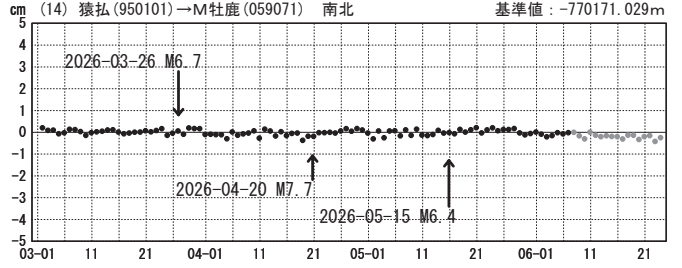
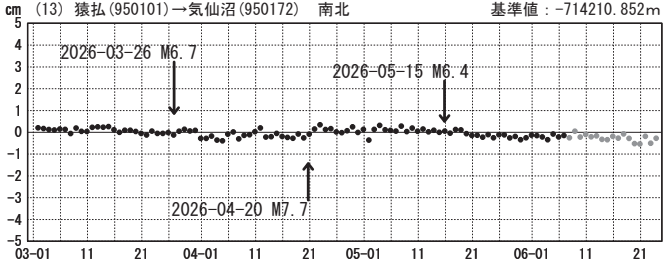
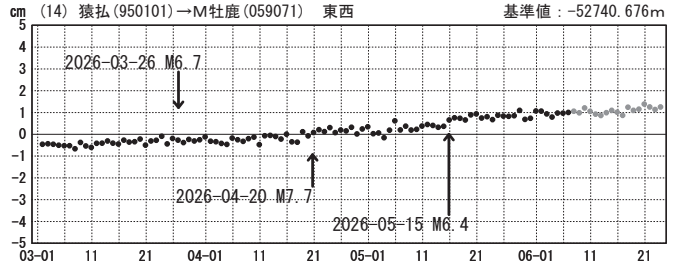
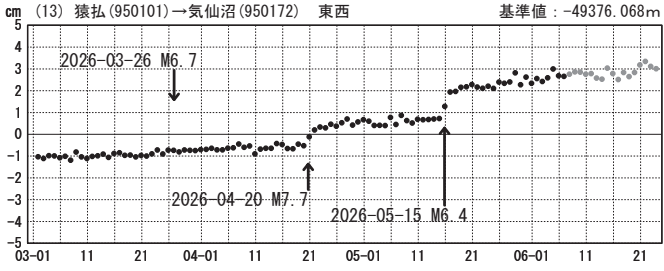


●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

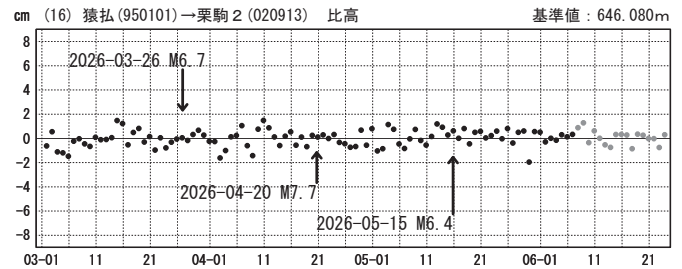
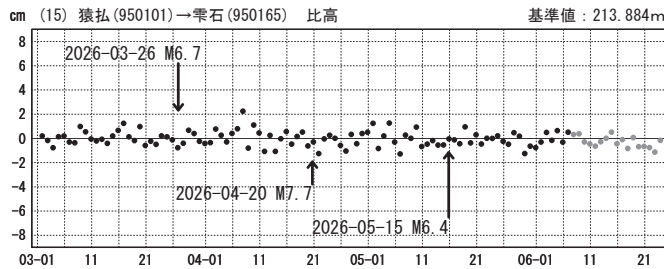
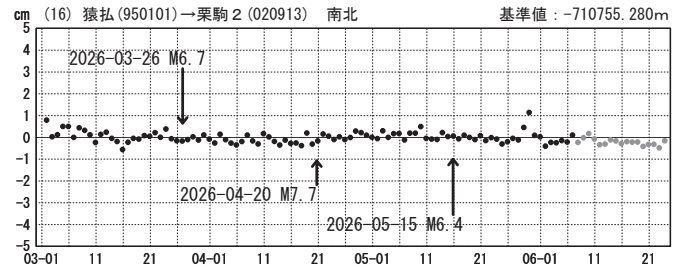
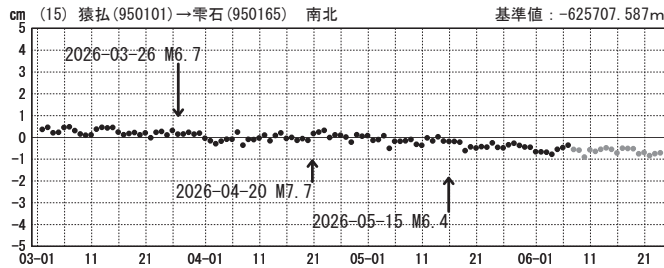
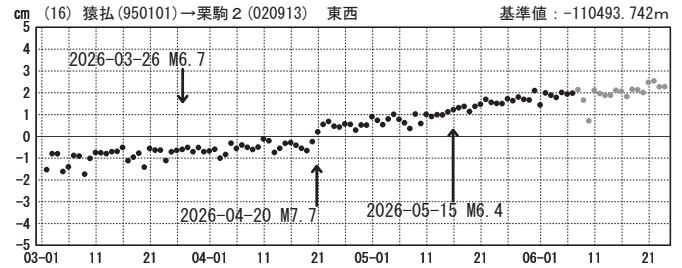
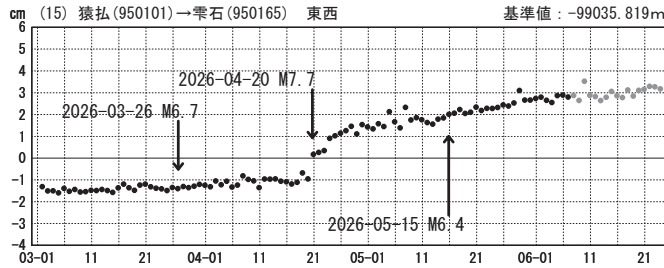
期間：2026-03-01～2026-06-23 JST

期間：2026-03-01～2026-06-23 JST



期間：2026-03-01～2026-06-23 JST

期間：2026-03-01～2026-06-23 JST

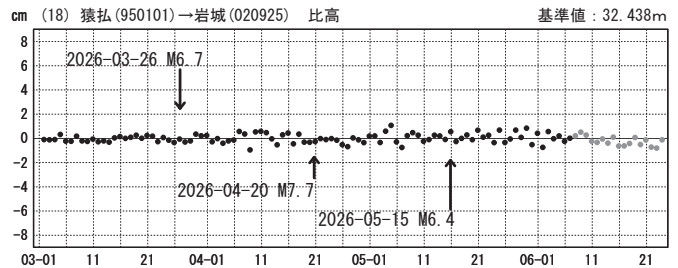
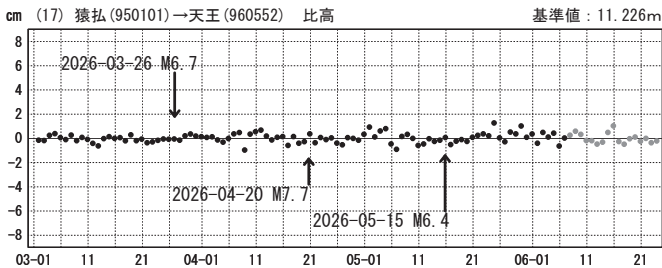
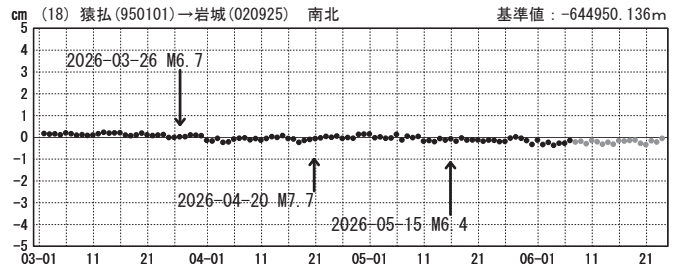
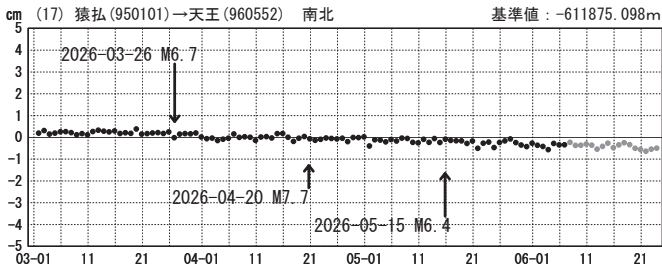
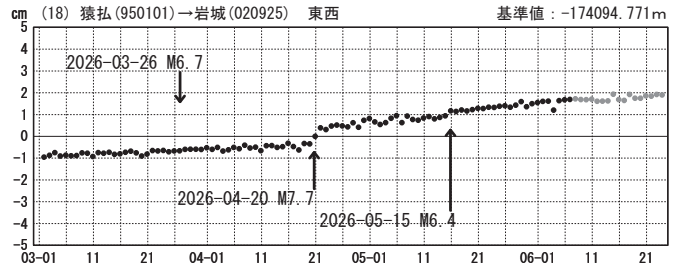
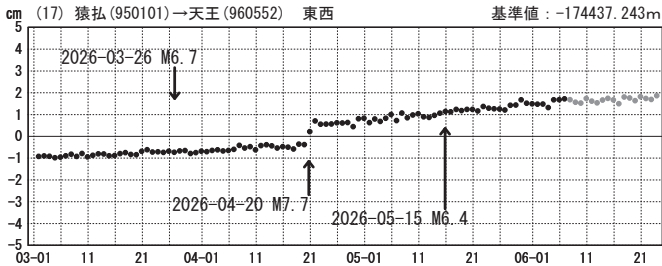


●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

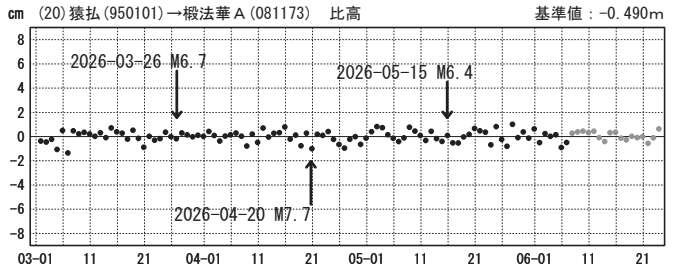
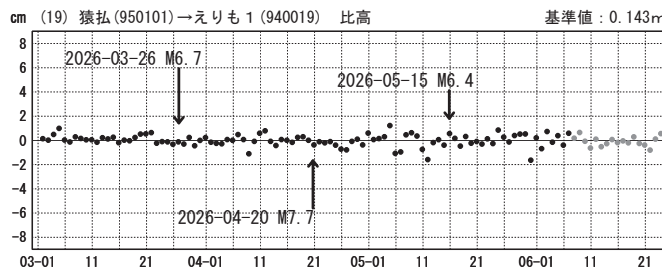
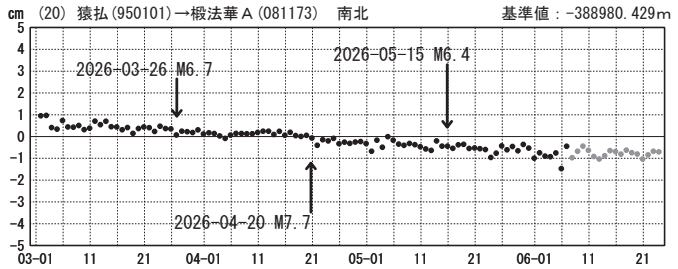
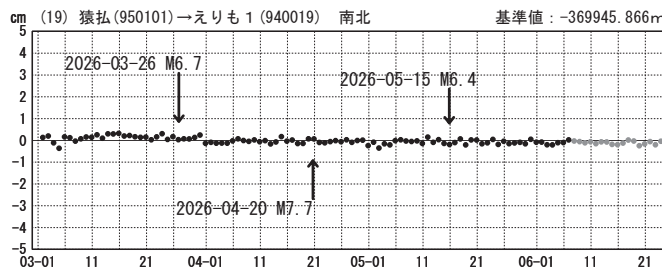
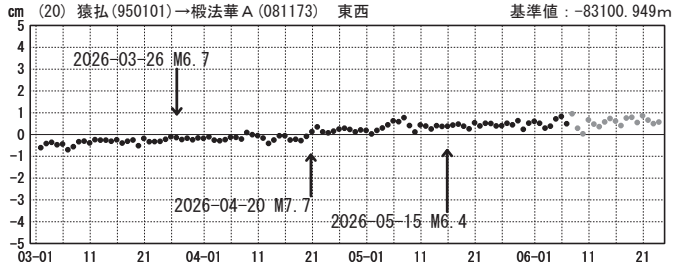
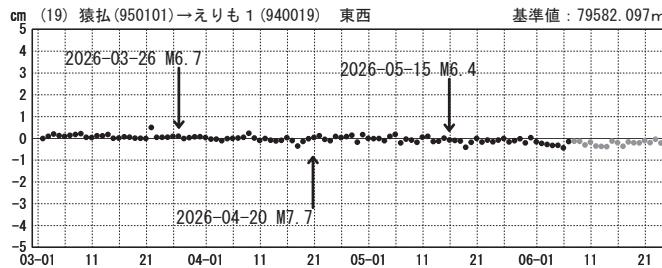
期間：2026-03-01～2026-06-23 JST

期間：2026-03-01～2026-06-23 JST



期間：2026-03-01～2026-06-23 JST

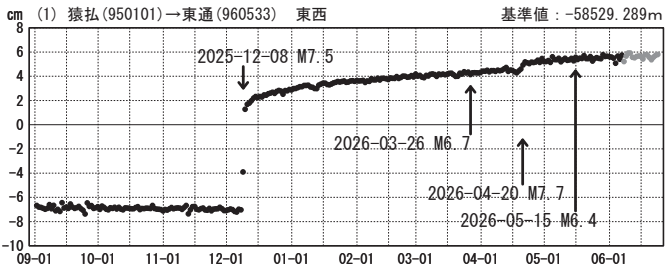
期間：2026-03-01～2026-06-23 JST



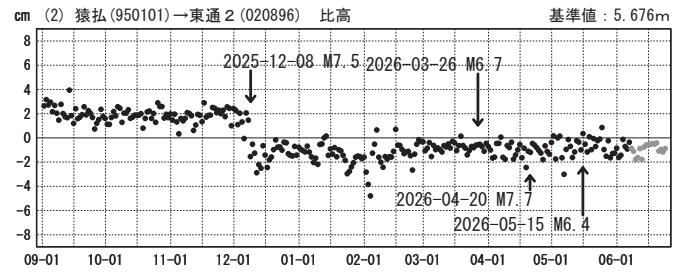
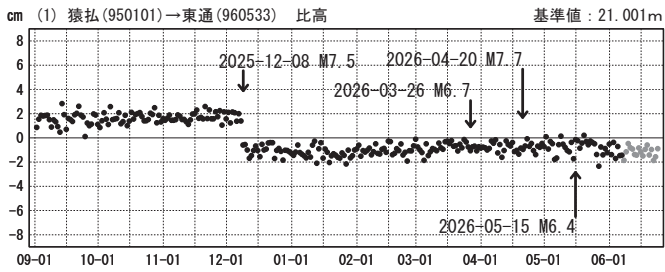
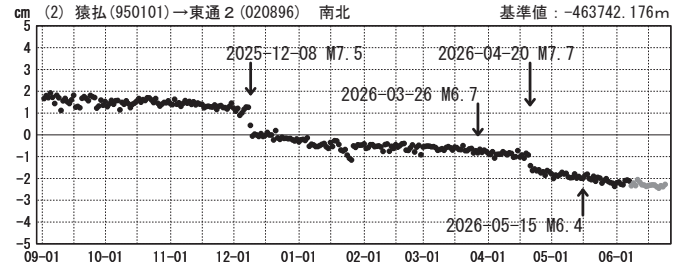
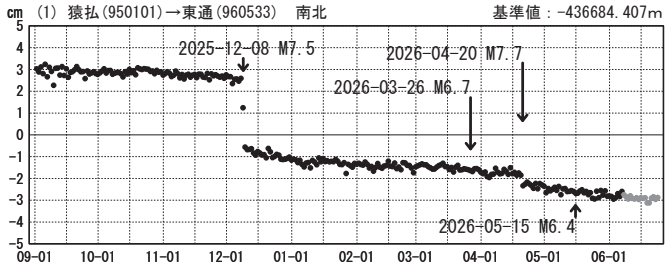
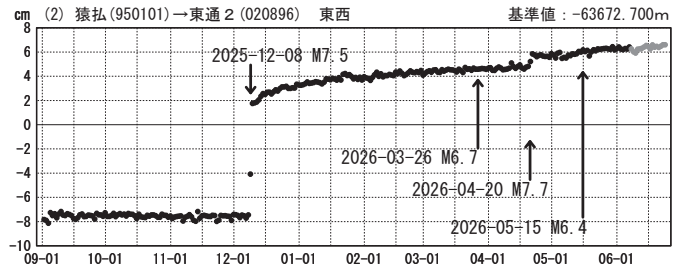
●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

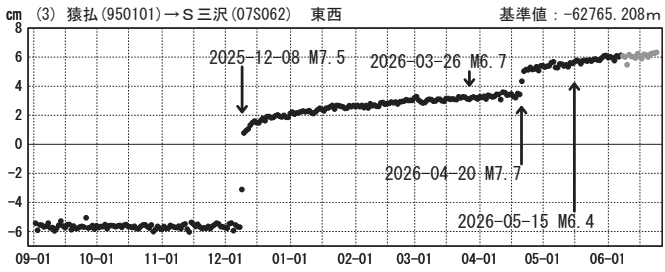
期間：2025-09-01～2026-06-23 JST



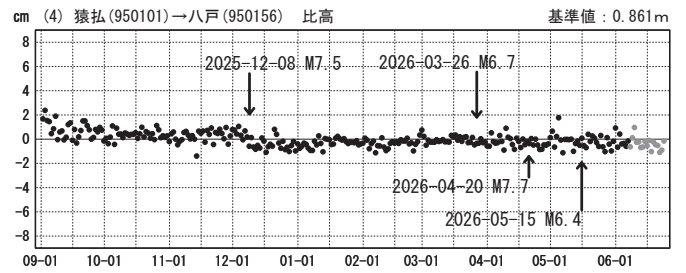
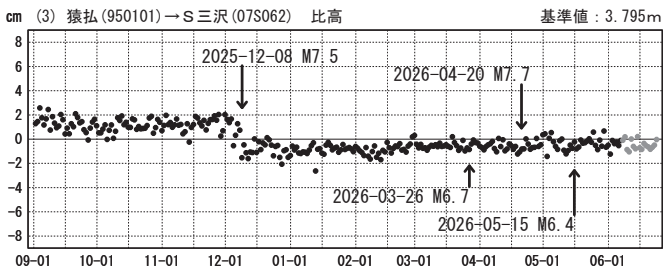
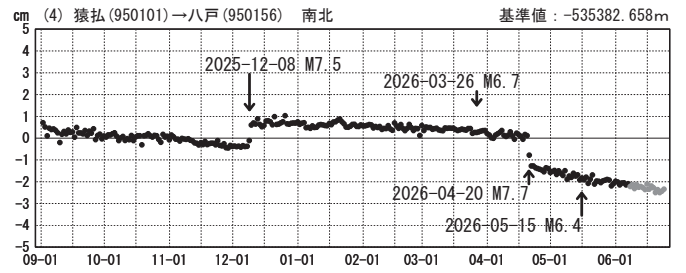
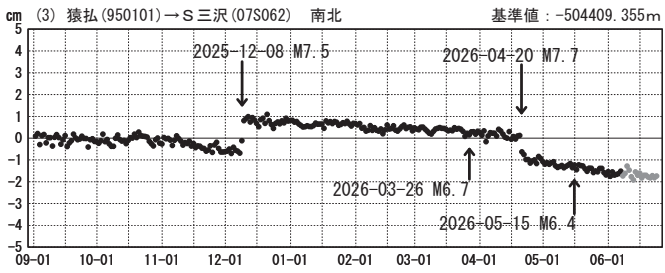
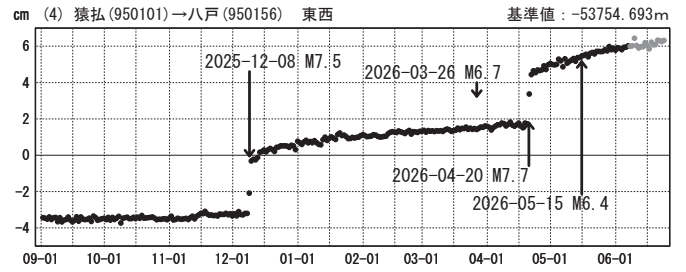
期間：2025-09-01～2026-06-23 JST



期間：2025-09-01～2026-06-23 JST



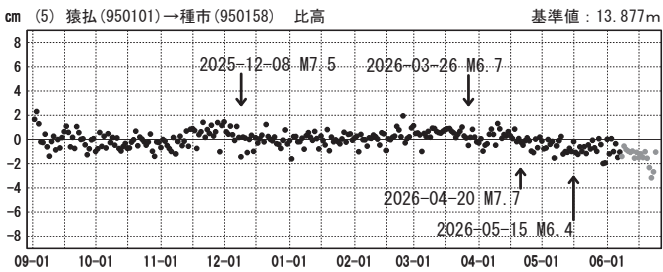
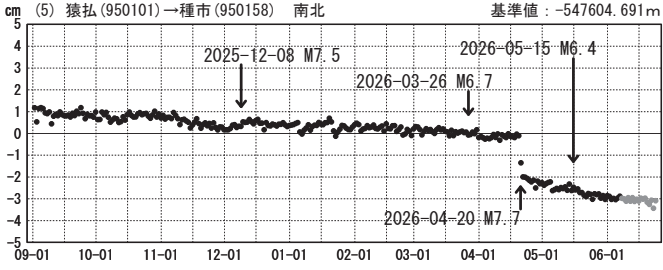
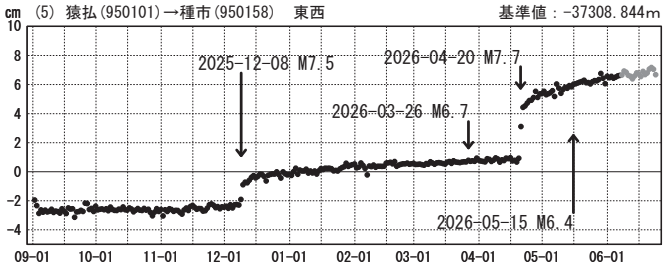
期間：2025-09-01～2026-06-23 JST



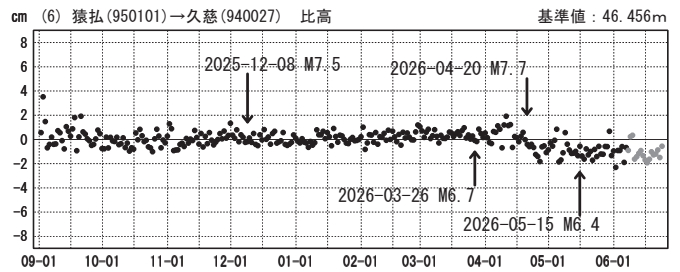
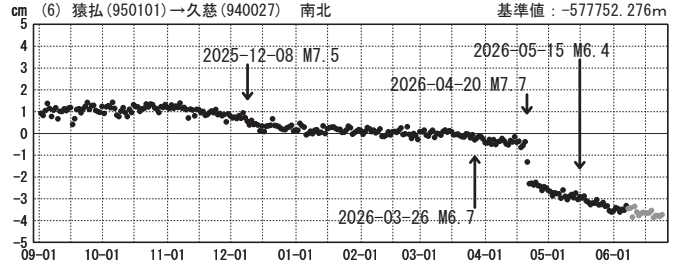
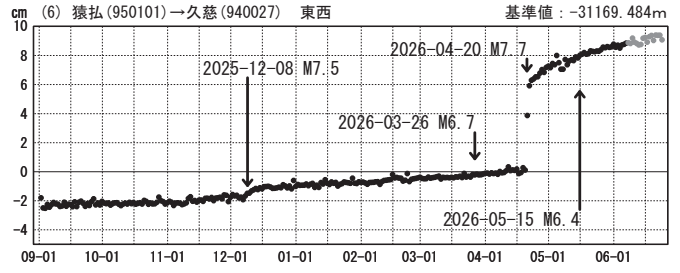
●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

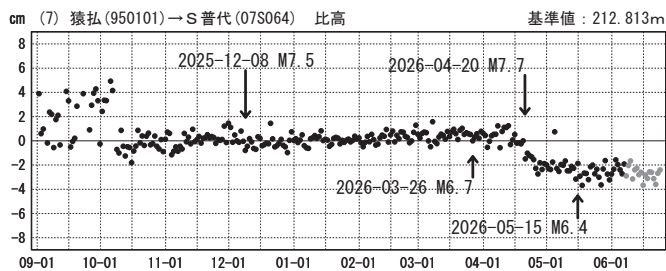
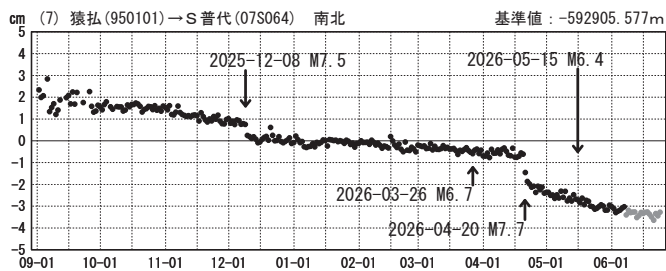
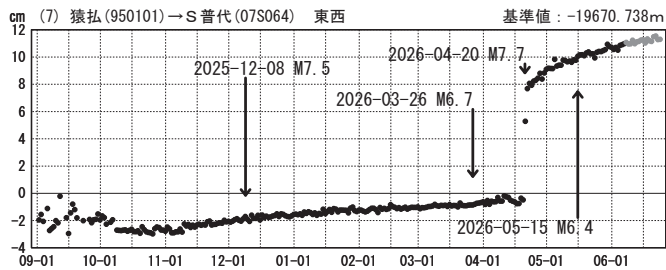
期間：2025-09-01～2026-06-23 JST



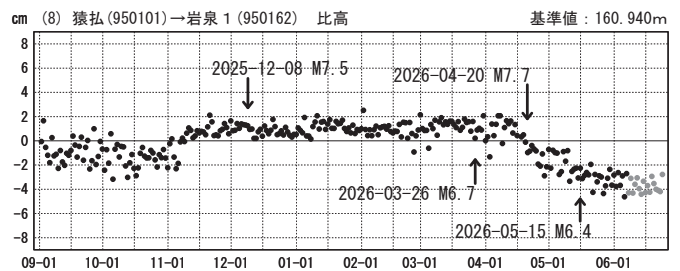
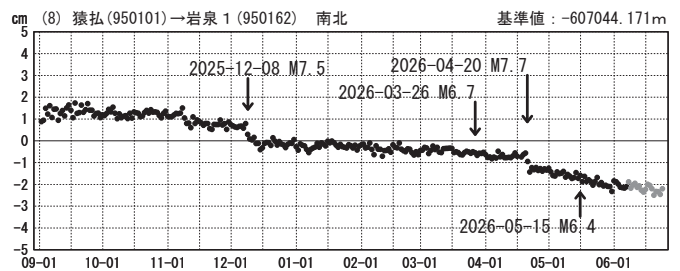
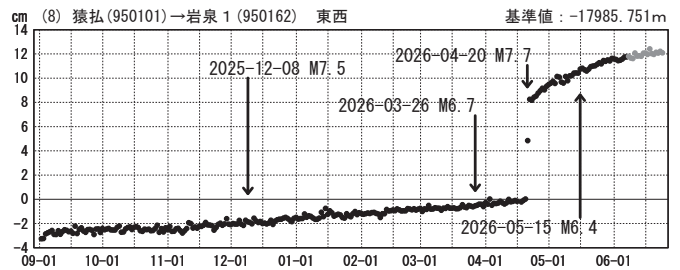
期間：2025-09-01～2026-06-23 JST



期間：2025-09-01～2026-06-23 JST



期間：2025-09-01～2026-06-23 JST

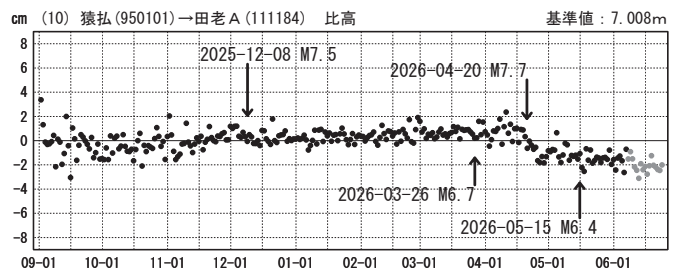
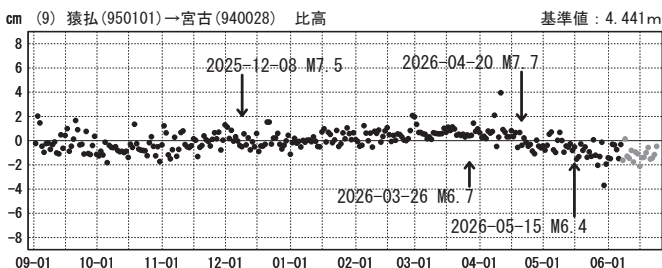
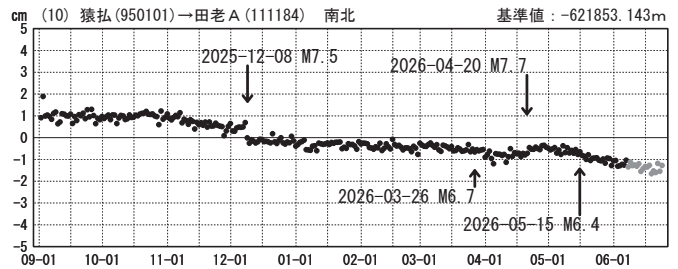
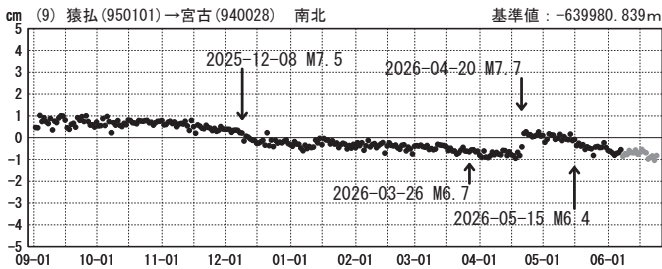
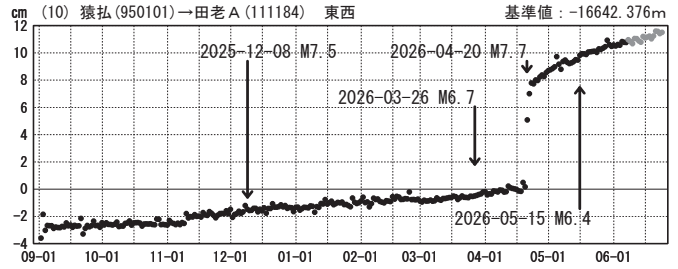
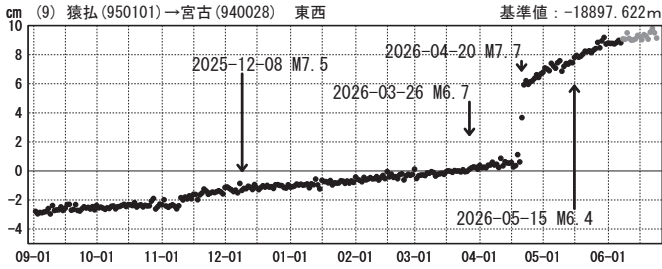


●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

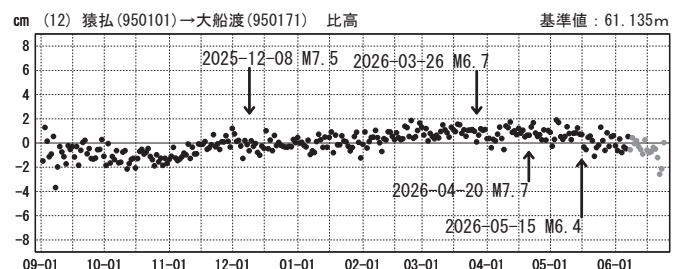
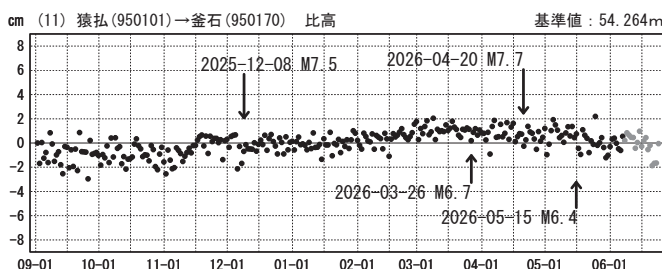
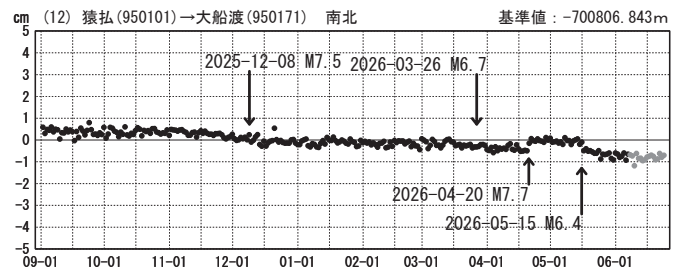
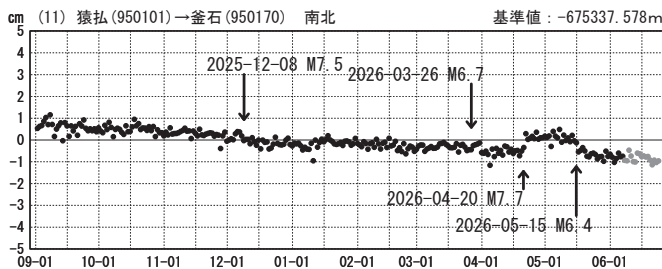
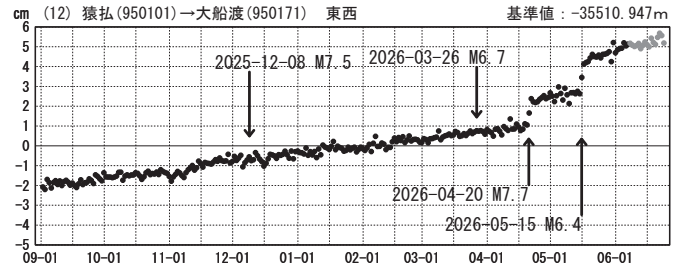
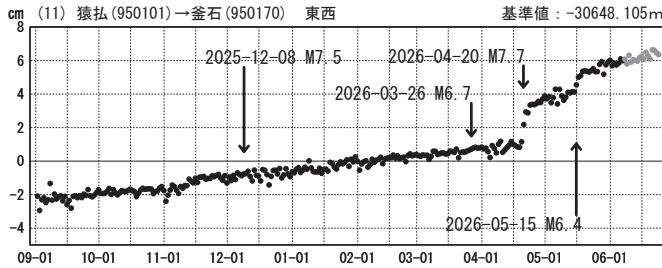
期間：2025-09-01~2026-06-23 JST

期間：2025-09-01~2026-06-23 JST



期間：2025-09-01~2026-06-23 JST

期間：2025-09-01~2026-06-23 JST

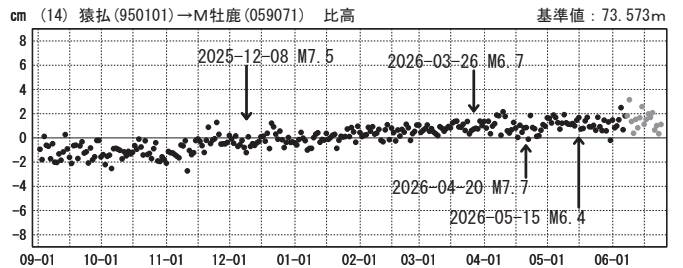
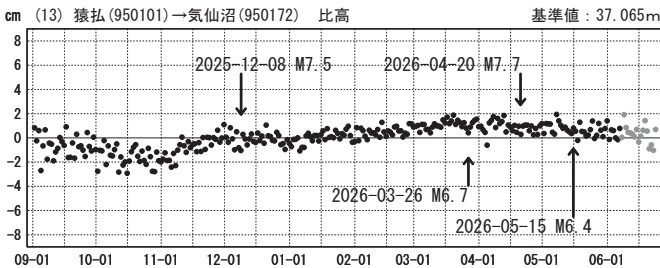
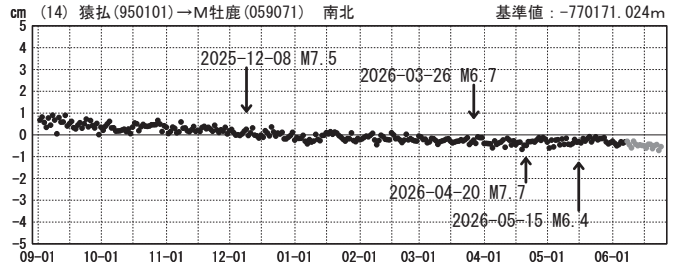
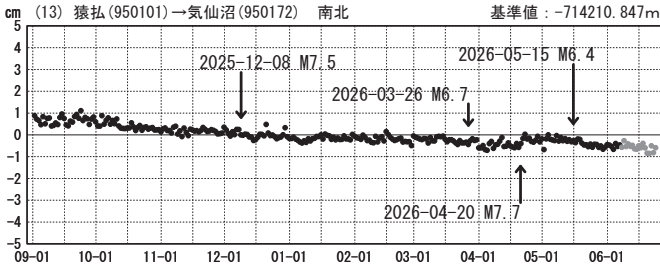
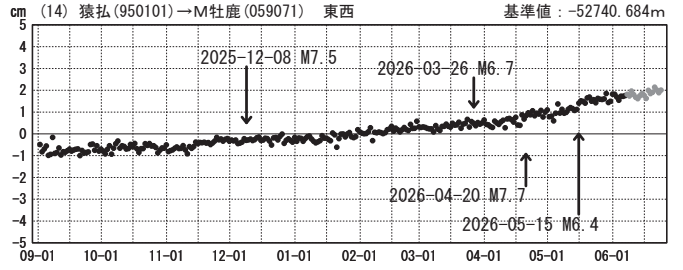
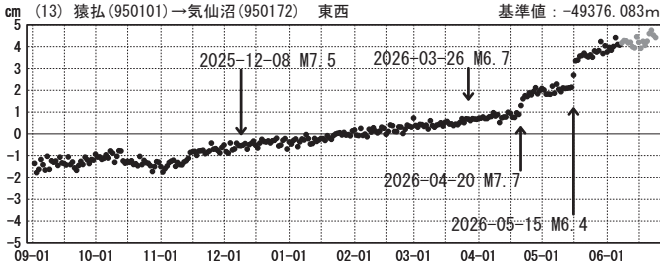


●— [F5.1:最終解] ●— [R5.1:速報解]

成分変化グラフ

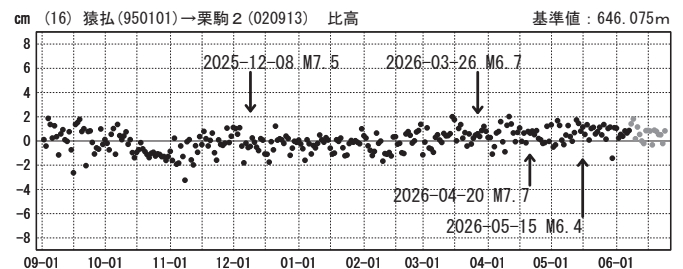
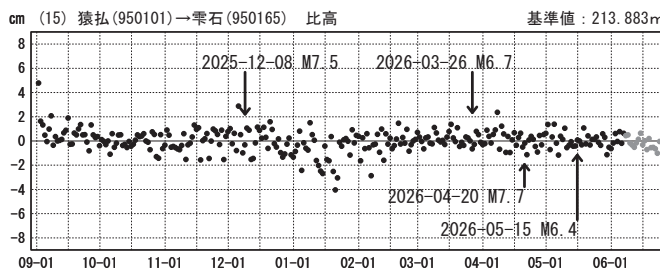
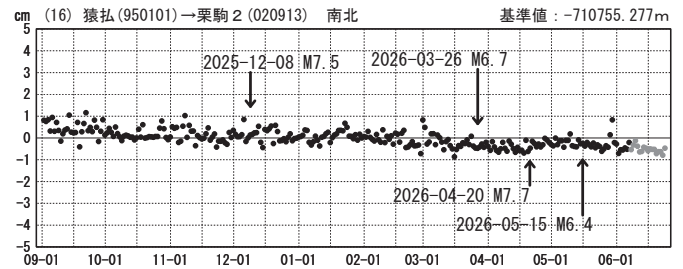
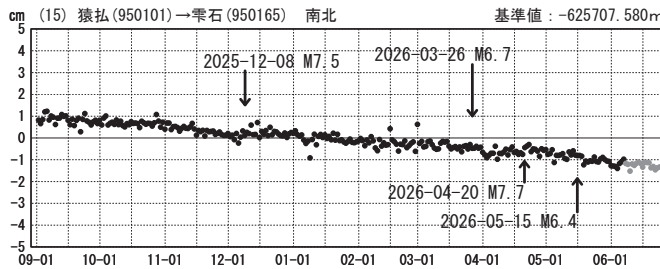
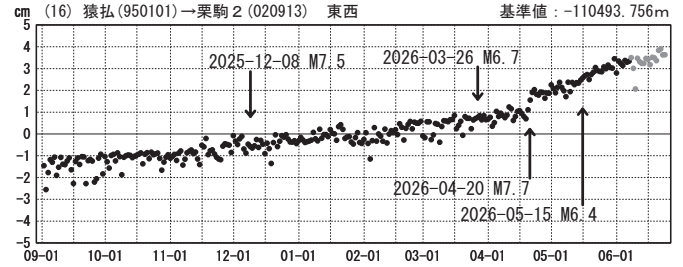
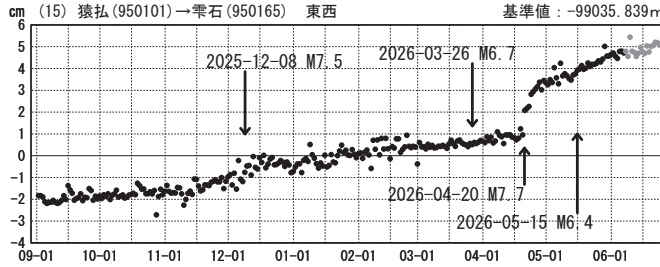
期間：2025-09-01～2026-06-23 JST

期間：2025-09-01～2026-06-23 JST



期間：2025-09-01～2026-06-23 JST

期間：2025-09-01～2026-06-23 JST

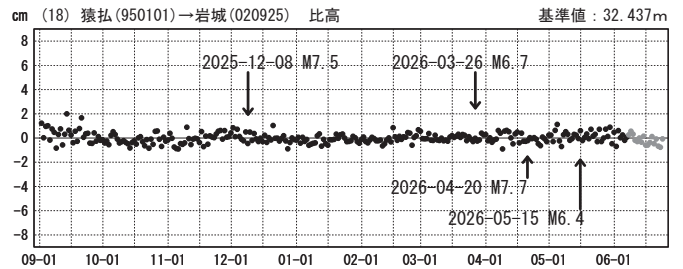
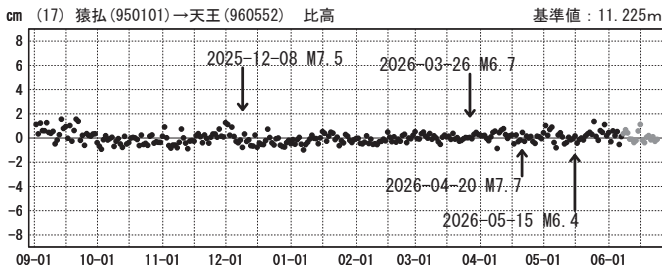
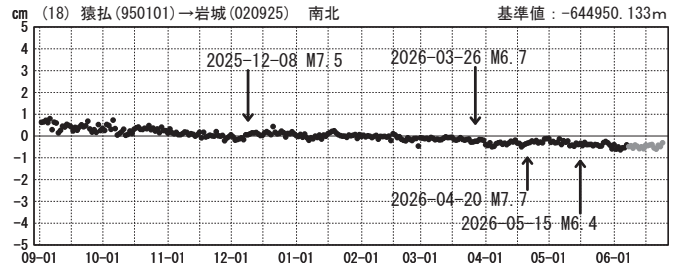
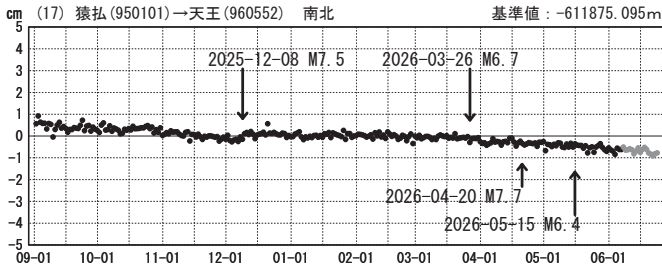
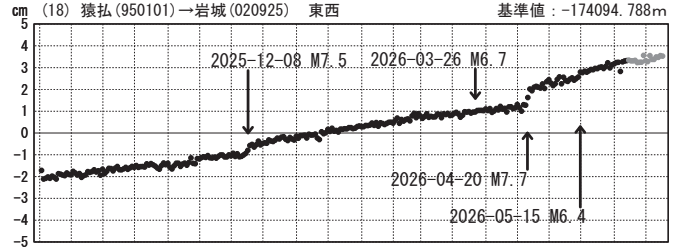
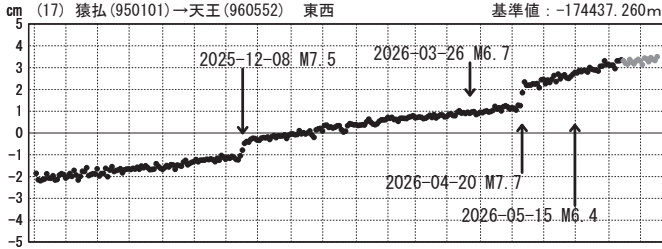


●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

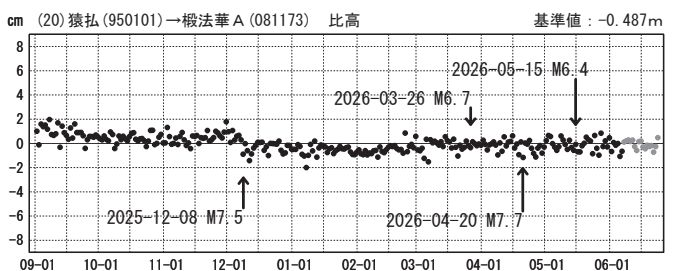
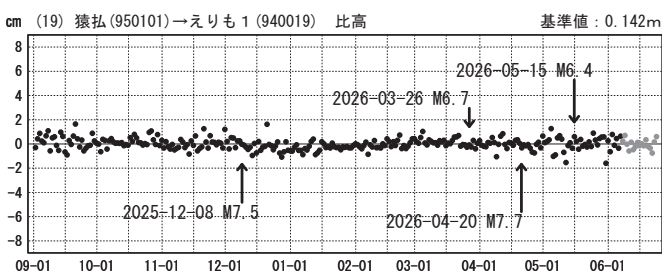
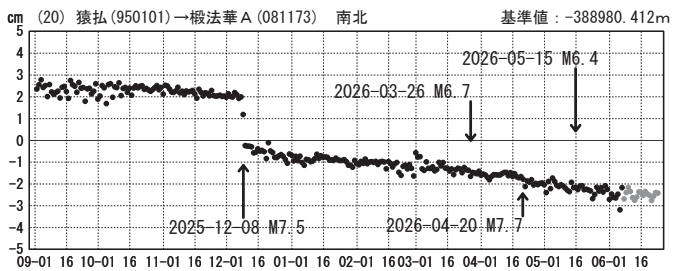
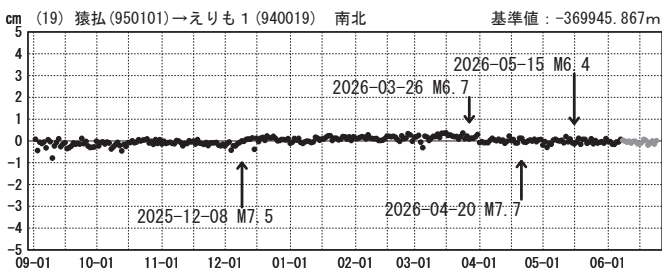
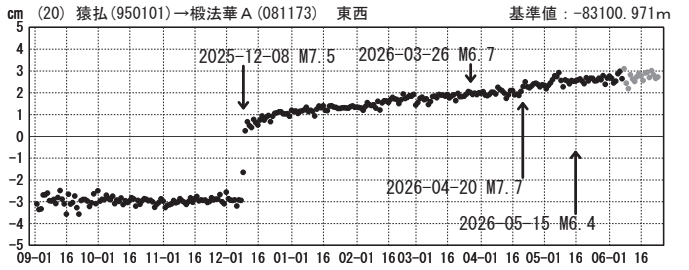
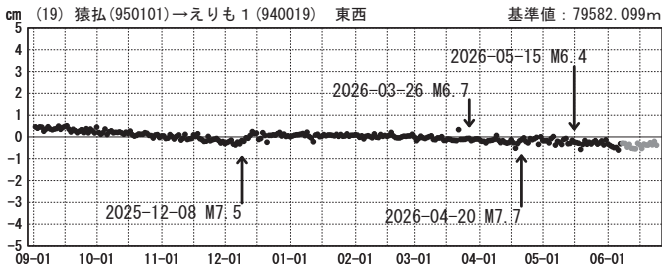
期間：2025-09-01~2026-06-23 JST

期間：2025-09-01~2026-06-23 JST



期間：2025-09-01~2026-06-23 JST

期間：2025-09-01~2026-06-23 JST



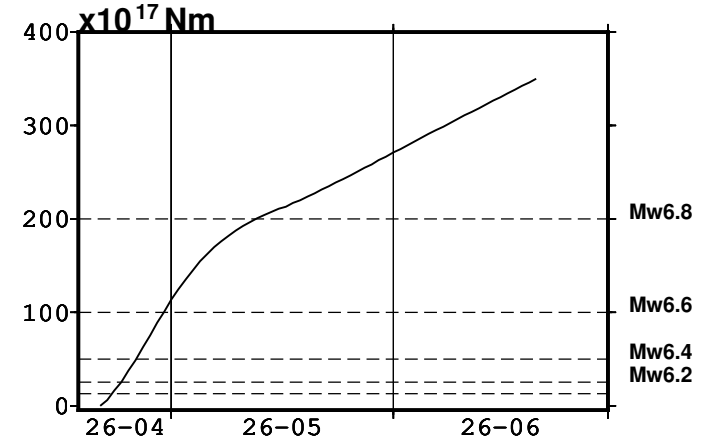
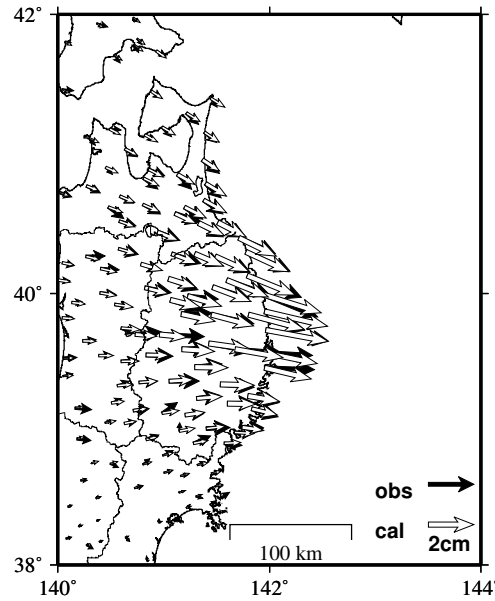
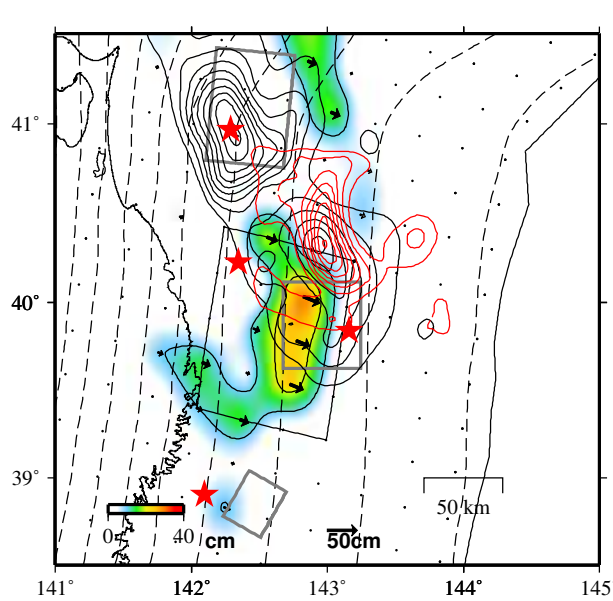
●— [F5.1:最終解] ●— [R5.1:速報解]

GNSSデータから推定された東北地方のゆっくりすべり（暫定）

推定すべり分布
(2026-04-21/2026-06-21☒)

観測値（黒）と計算値（白）の比較
(2026-04-21/2026-06-21☒)

モーメント* 時系列（試算）



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載。
すべり量（カラー）及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示す。
推定したすべり量が標準偏差(σ)の3倍以上のグリッドを黒色で表示している。

使用データ: GEONETによる日々の座標値(F5.1解、R5.1解)

F5.1解(2025-10-01/2026-06-06☒)・R5.1解 (2026-06-07/2026-06-21☒)

トレンド期間: 2023-01-01/2024-12-31 (年周・半年周成分は補正なし)

モーメント計算範囲: 左図の黒枠内側

観測値: 3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値

黒破線: 太平洋プレート上面の等深線(Nakajima & Hasegawa 2006; Kita et al. 2010)

すべり方向: プレートの沈み込み方向に拘束

赤星: 2025-12-08青森県東方沖、2026-04-20三陸沖、2026-05-15宮城県沖の地震の震央（気象庁一元化震源）

矩形断層（灰）: 2025-12-08青森県東方沖、2026-04-20三陸沖、2026-05-15宮城県沖の地震

固定局: 猿払

* 電子基準点の保守等による変動は補正している。

* 令和6年能登半島地震に伴う地殻変動は補正している。

* 以下の地震に伴う地殻変動は補正している。

2025-11-09三陸沖の地震、2025-12-08青森県東方沖の地震、2026-03-26三陸沖の地震

2026-04-20三陸沖の地震、2026-05-15宮城県沖の地震

* 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の粘弾性変形は補正している(Suito 2017)

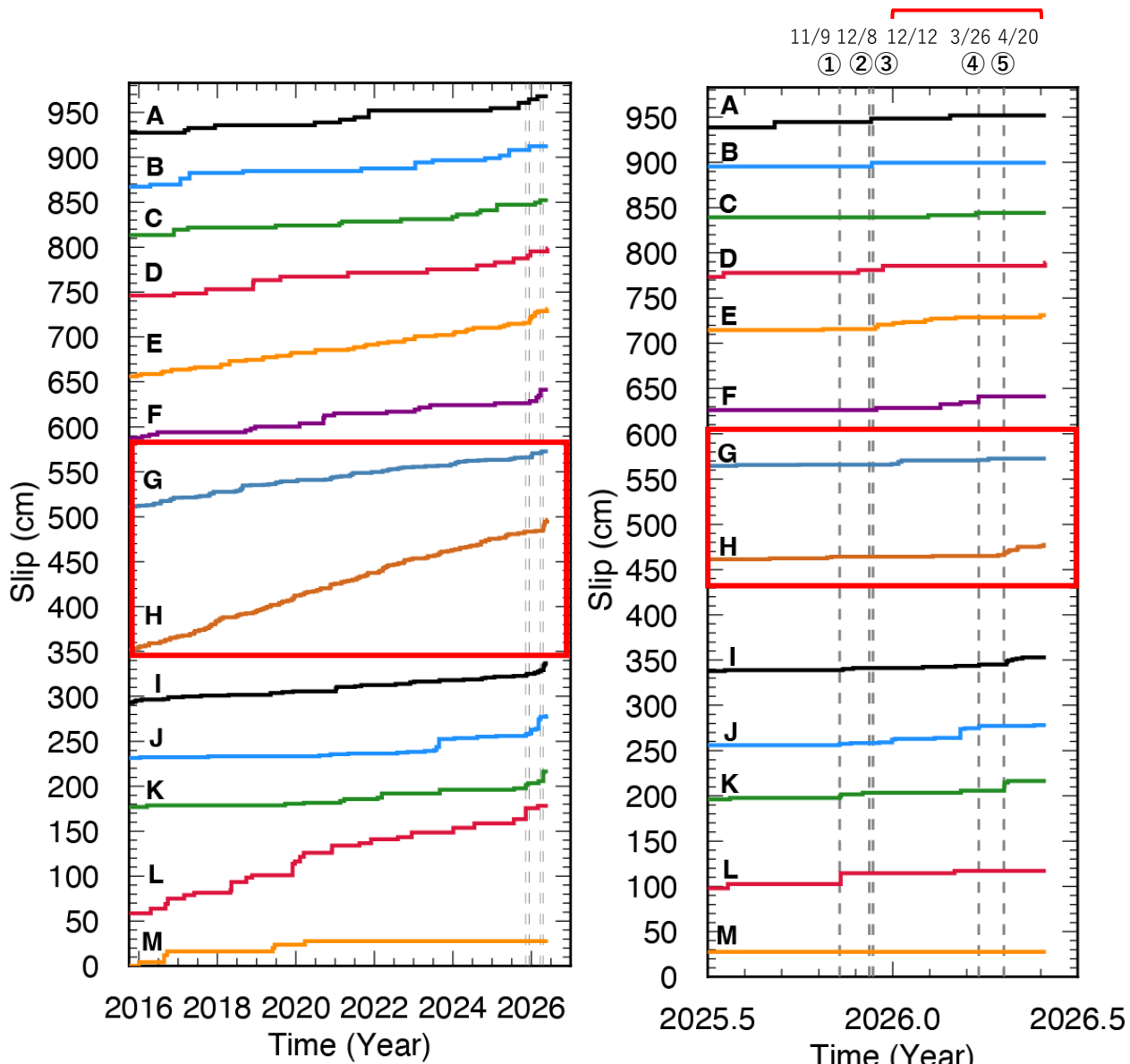
* 2025-12-08青森県東方沖、2026-04-20三陸沖の地震の粘弾性変形は補正している(Han et al. (2014)を参考)

* 共通誤差成分を推定している。

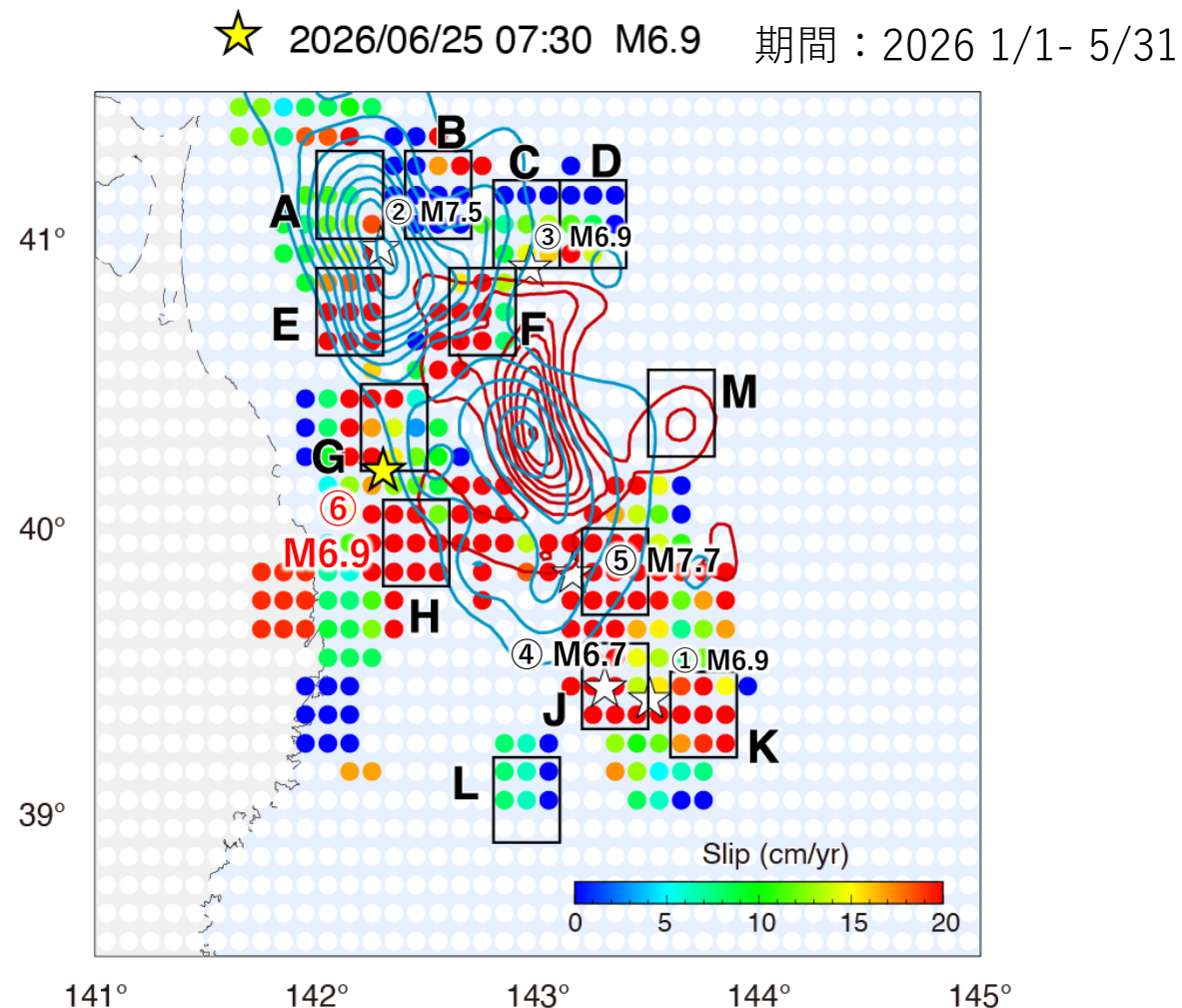
* モーメント: 断層運動のエネルギーの目安となる量。

繰り返し地震から推定した非地震性すべりの推移

東京大学地震研究所 調430-(3)-5
 (6月調査委員会資料に加筆修正)
 繰り返し地震カタログは気象庁作成



領域ごとの繰り返し地震の積算滑り：非地震性すべりの推移を表す



0.3度×0.3度グリッド領域内の平均累積すべり速度を、0.1度シフトで表示
 赤コンターは永井・他(2001)による1994年三陸はるか沖地震のすべり分布、緑はYamanaka and Kikuchi (2004)による1989年三陸沖M7.1の地震のすべり分布

繰り返し地震データ：2015/10/26 -2026/5/31

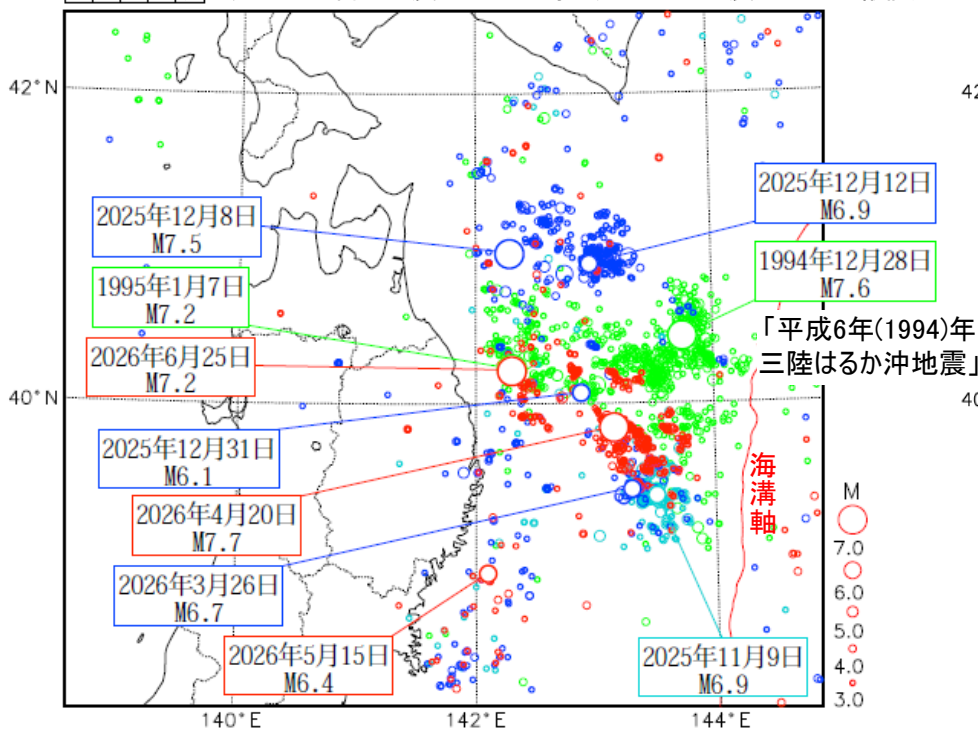
青森県東方沖から三陸沖の地震活動域比較

震央分布図

(1994年12月28日～1995年1月31日及び2025年11月1日
～2026年6月25日09時00分、深さ0～90km、M \geq 3.0)

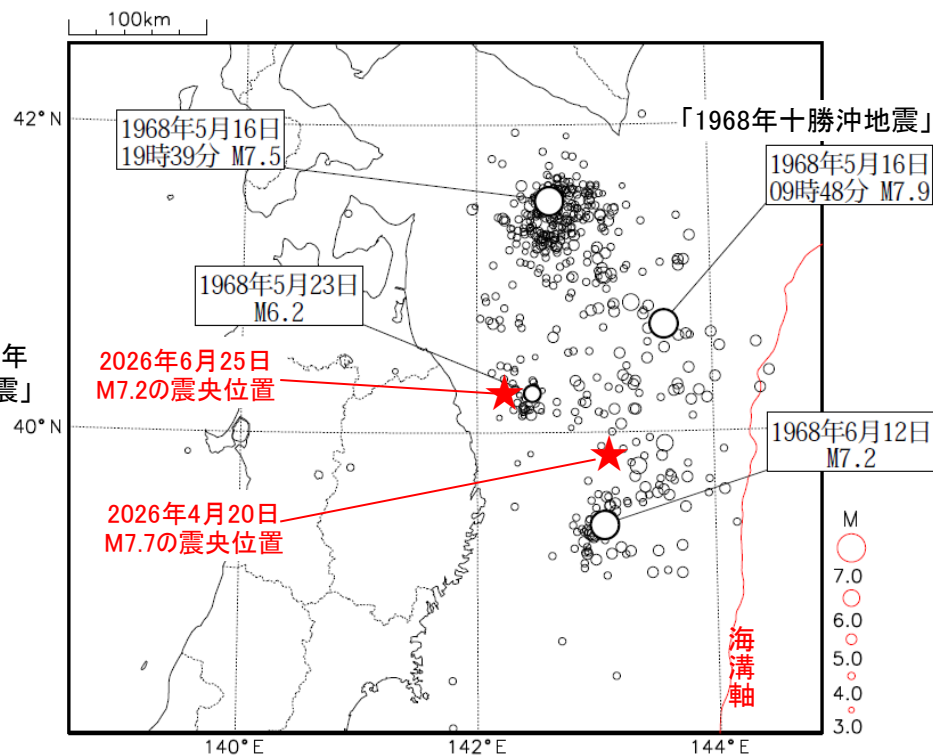
- 1994年12月28日～1995年1月31日
- 2025年11月1日～2025年12月8日23時14分
- 2025年12月8日23時15分～2026年4月19日
- 2026年4月20日以降

100km (※6月24日以降の地震は25日07時30分M7.2の地震以外は速報値)



震央分布図

(1968年5月16日～1968年6月15日、
深さ0～90km、M \geq 3.0)

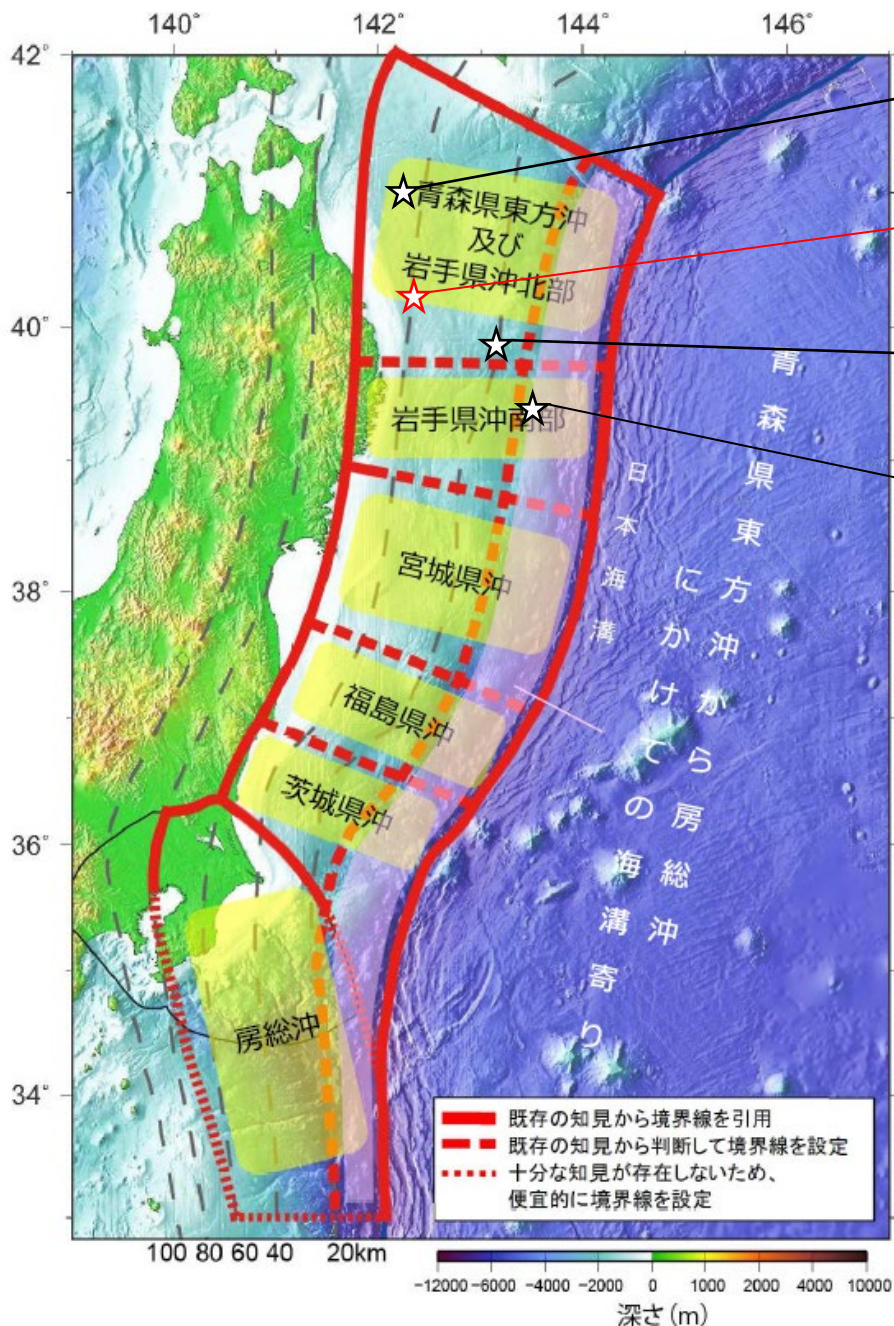


左図には、「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」の約1か月分の地震活動域、2025年11月9日三陸沖の地震活動域、2025年12月8日青森県東方沖の地震活動域及び2026年4月20日三陸沖の地震活動域等を示している。

右図には、「1968年十勝沖地震」の約1か月分の地震活動域を示している。

- ・「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」、2025年11月及び2026年4月の三陸沖の地震、2025年12月の青森県東方沖の地震の活動域は、すみ分けているように見える。
- ・「1968年十勝沖地震」の活動域は、上記の活動域を包含するように広がっている。
- ・2026年4月の三陸沖の地震の活動域は、2025年11月の三陸沖の地震の活動域の北西側、「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」の活動域の南側に位置しているように見える。

長期評価の対象領域と今回の地震



2025/12/8 54 km M7.5

2026/6/25 44 km M7.2

2026/04/20 19 km M7.7

2025/11/9 15 km M6.9

青森県東方沖及び岩手県沖北部、宮城県沖以外の領域については、ほぼ同一の震源域で繰り返し発生している規模の大きな地震は知られていない。超巨大地震(東北地方太平洋沖型)については、宮城県沖を必ず含み、隣接する領域(岩手県沖南部または福島県沖)の少なくとも一方にまたがり、場合によっては茨城県沖まで破壊が及ぶ可能性のある地震であると考えた。

～

評価対象領域の区域分けに関して、大地震の記録が比較的多く残っている青森県東方沖及び岩手県沖北部については、1968年十勝沖地震を当該海域で発生する代表例と考えて設定した。

今後30年以内の地震発生確率 (2026年1月1日時点)

事務局収集資料
将来発生する地震の評価

日本海溝沿いの地震 (「日本海溝沿いの地震活動の長期評価」 (平成31年2月公表) より)

評価対象地震	発生領域	規模	ランク	地震発生確率 (30年以内)	評価に使用した地震	地震後 経過率 ^{注2}
超巨大地震 (東北地方太平洋沖型)	岩手県沖南部～ 茨城県沖	M9.0程度	Iランク	ほぼ0%	過去約3000年間の5回	0.02- 0.03
プレート間 巨大地震	青森県東方沖及び岩 手県沖北部	M7.9程度	IIIランク	20～40%	1677年以降の4回	0.59
	宮城県沖	M7.9程度	IIランク	20%程度	1793年以降の3回 ^{注1}	—
ひとまわり小さい プレート間地震	青森県東方沖及び岩 手県沖北部	M7.0～7.5程度	IIIランク	90%程度 以上	1923年以降の10回 ^{注1}	—
	岩手県沖南部	M7.0～7.5程度	IIIランク	30%程度	1923年以降の1回 ^{注1}	—
	宮城県沖	M7.0～7.5程度	IIIランク	90%程度	1923年以降の6～7回 ^{注1}	—
	宮城県沖の陸寄り (宮城県沖地震)	M7.4前後	IIIランク	80%～90%程度 以上	1897年以降の4回	0.39
	福島県沖	M7.0～7.5程度	IIIランク	50%程度	1923年以降の2回 ^{注1}	—
	茨城県沖	M7.0～7.5程度	IIIランク	80%程度	1923年以降の5回 ^{注1}	—
海溝寄りのプレート間 地震 (津波地震等)	青森県東方沖から房総沖に かけての海溝寄り	Mt8.6～9.0 ^{注3}	IIIランク	30%程度	1600年以降の4回 ^{注1}	—
沈み込んだプレート内 の地震	青森県東方沖及び岩手県沖 北部～茨城県沖	M7.0～7.5程度	IIIランク	60～70%	1923年以降の3～4回 ^{注1}	—
海溝軸外側の地震	日本海溝の海溝軸外側	M8.2前後	IIランク	7%	1600年以降の1回 ^{注1}	—

^{注1} 東北地方太平洋沖地震より後の期間は除いた

^{注2} 地震後経過率 = 最新発生時期からの経過時間 ÷ 平均発生間隔

—は時間が経過しても地震の起こりやすさが変わらないと仮定した地震

^{注3} Mtは津波マグニチュード